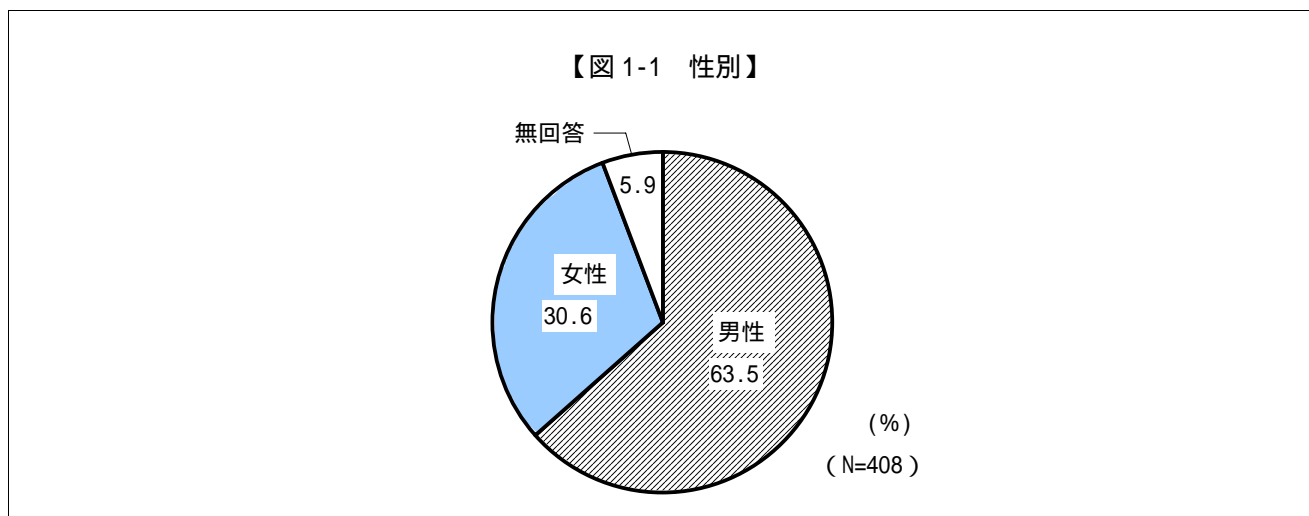


調查結果

1 . 基本属性

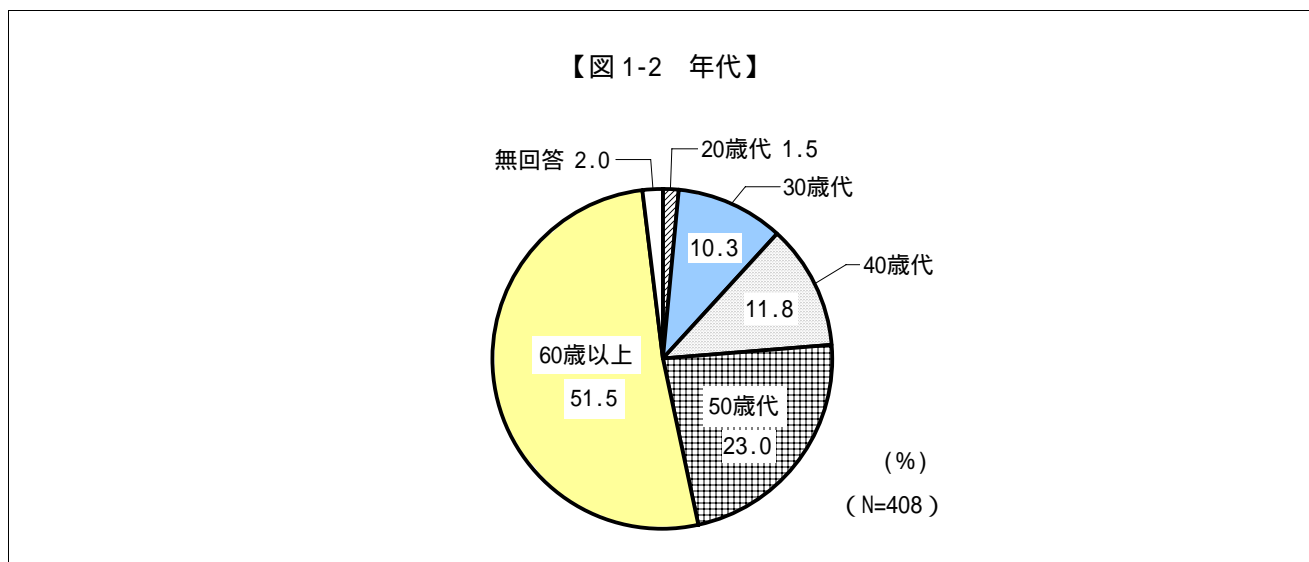
(1) 性別、年代

性別



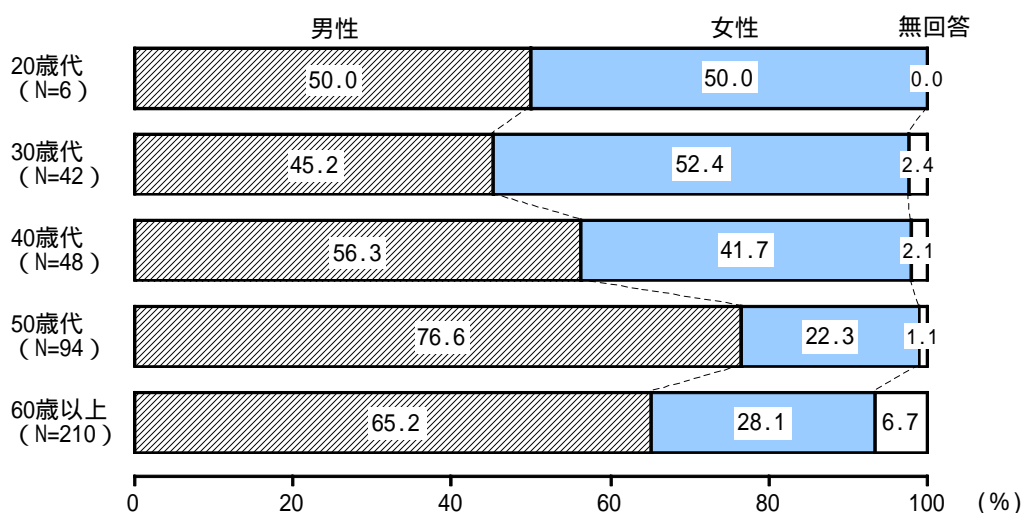
性別構成は、「男性」が 63.5%、「女性」が 30.6%となっている。(図 1-1)

年代



年代は、「60 歳以上」が 51.5%と最も多く、次いで多い「50 歳代」(23.0%) と合わせると、50 歳以上が 74.5%を占める。(図 1-2)

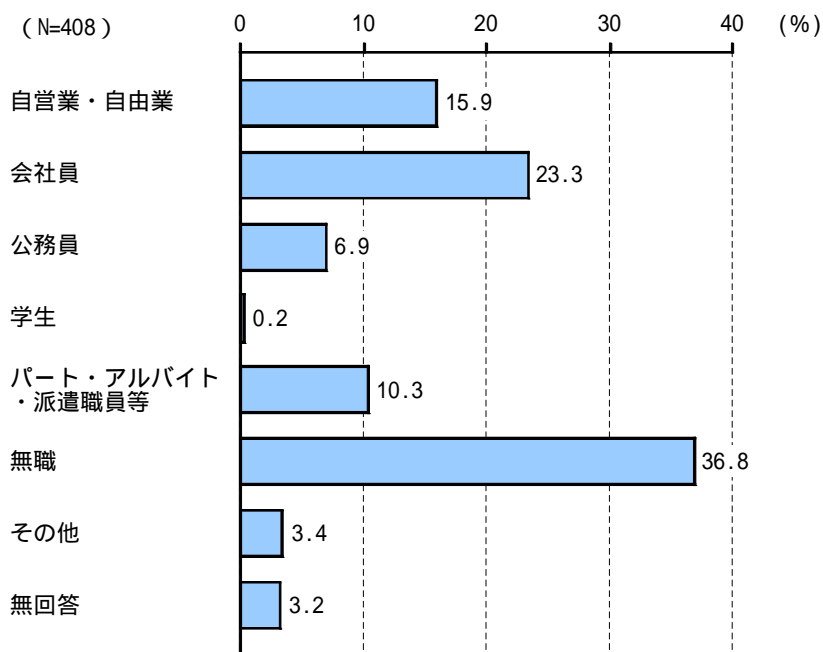
【図 1-2-1 年代別 性別】



対象者の年齢構成別に性別をみると、50歳代で「男」が76.6%、「女」が22.3%、60歳以上で「男性」が65.2%、「女性」が28.1%と、男女間で差がみられる。(図 1-2-1)

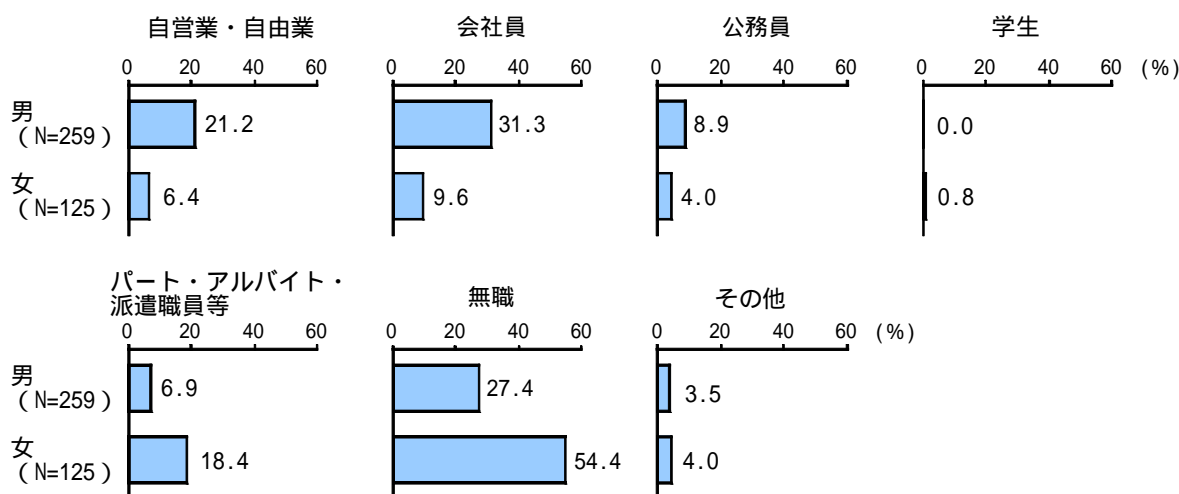
(2) 職業

【図 1-3 職業】



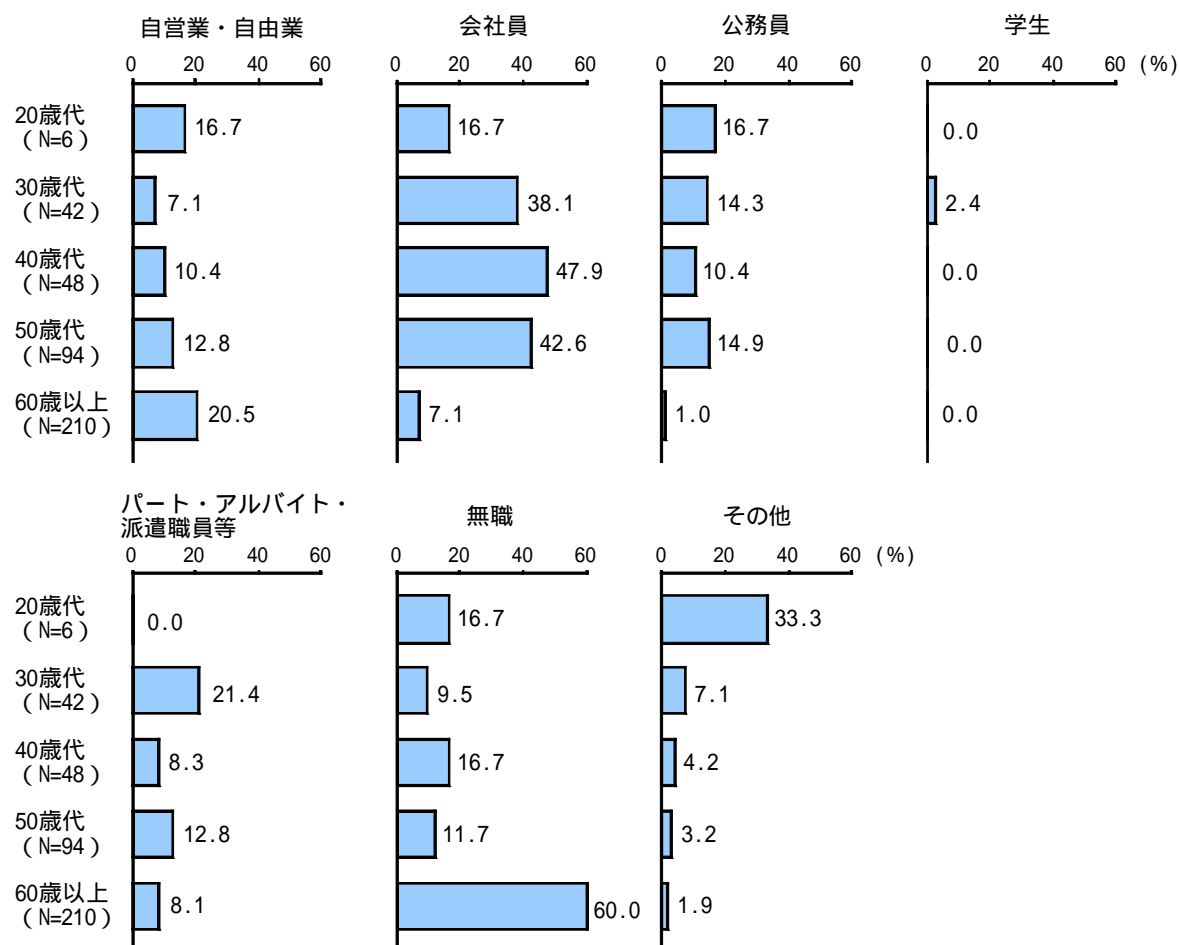
職業としては、「無職」が36.8%と最も多く、次いで「会社員」23.3%、「自営業・自由業」15.9%などとなっている。(図 1-3)

【図 1-3-1 性別 職業】



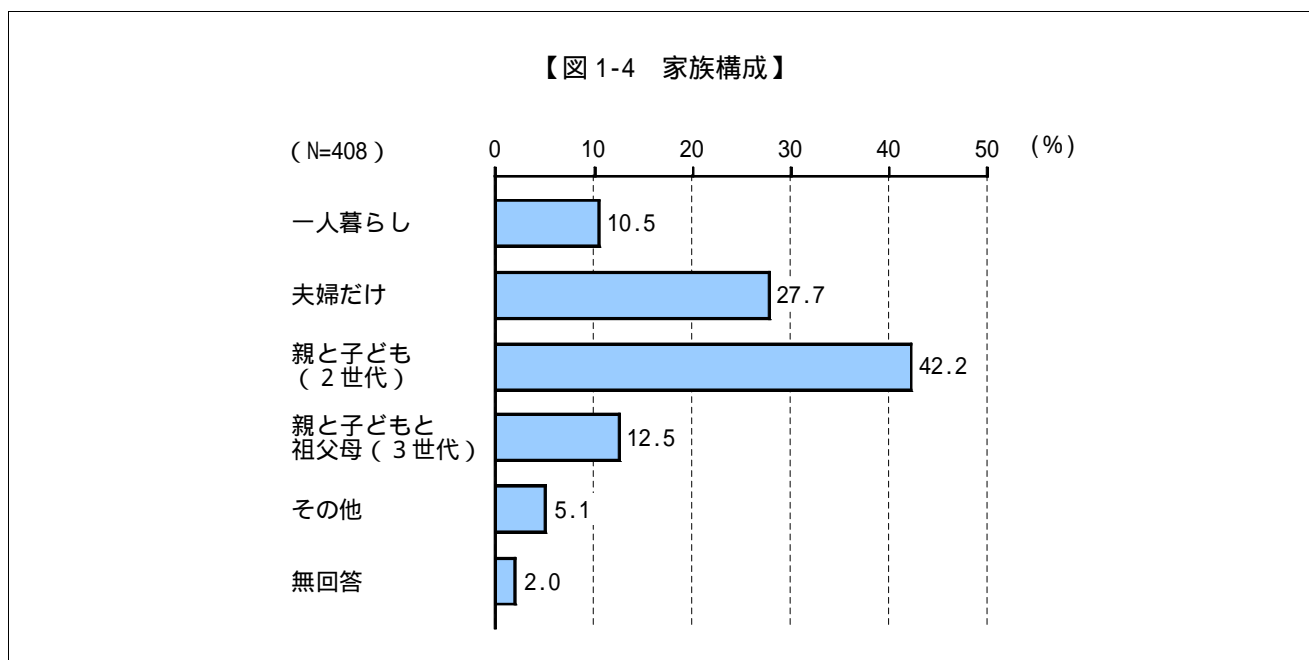
対象者の性別に職業をみたところ、「会社員」が男性で 31.3%、女性で 9.6%、「無職」が男性で 27.4%、女性で 54.4%と、それぞれ男女間で差がみられる。(図 1-3-1)

【図 1-3-2 年代別 職業】



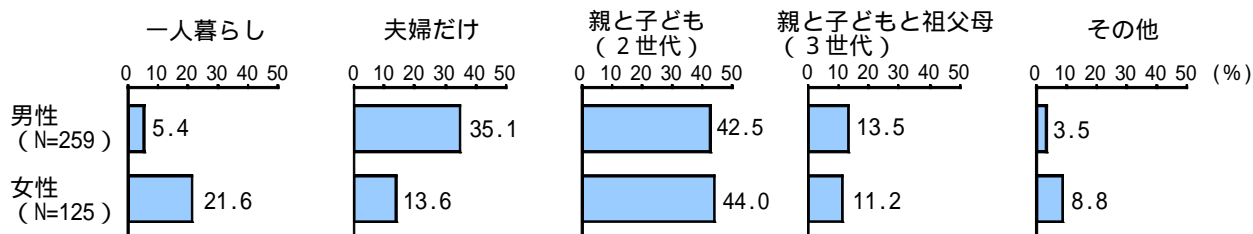
対象者の年齢構成別に職業をみたところ、「会社員」が 30～50 歳代で 3～4 割台、「無職」が 60 歳以上で 6 割と、それぞれ他の年齢層と比べて高くなっている。(図 1-3-2)

(3) 家族構成



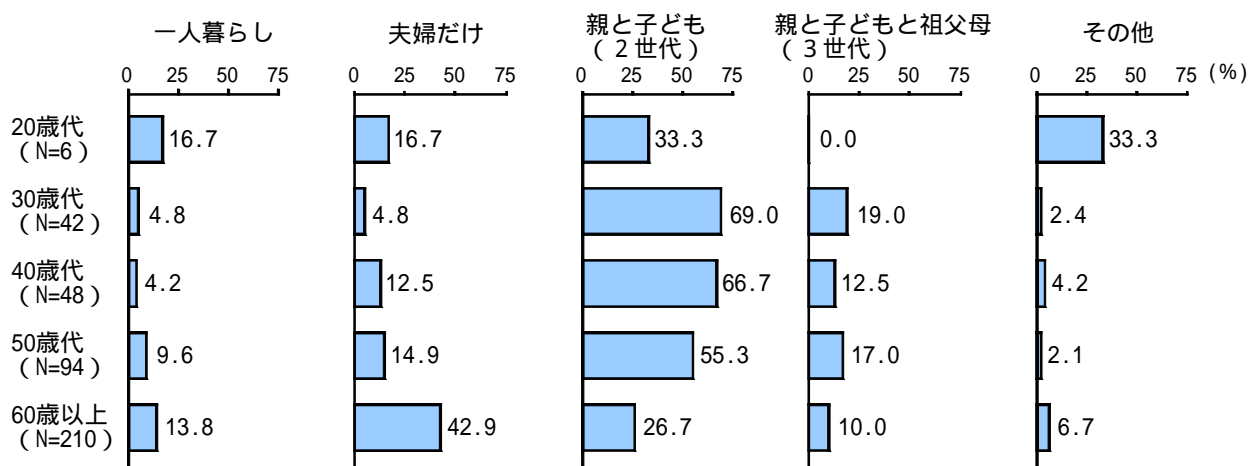
家族構成としては、「親と子ども(2世代)」が42.2%と最も多く、次いで「夫婦だけ」27.7%、「親と子どもと祖父母(3世代)」12.5%、「一人暮らし」10.5%となっている。(図1-4)

【図 1-4-1 性別 家族構成】



対象者の性別に家族構成をみたところ、「一人暮らし」が男性で5.4%、女性で21.6%、「夫婦だけ」が男性で35.1%、女性で13.6%と、男女間で差がみられる。(図1-4-1)

【図 1-4-2 年代別 家族構成】



対象者の年齢構成別に家族構成をみたところ、「親と子ども(2世代)」が30~50歳代で5~6割台、「夫婦だけ」が60歳以上で42.9%と、それぞれ他の年齢層と比べて高くなっている。(図 1-4-2)

(4) 住まい

居住地区

【表 1-1 居住地区】

(上段：人、下段：%)

調査数	亀岡地区	東別院町	西別院町	曾我部町	吉川町	稗田野町	本梅町	畑野町	宮前町	東本梅町	大井町
408	109	8	2	21	2	18	6	18	1	1	34
100.0	26.7	2.0	0.5	5.1	0.5	4.4	1.5	4.4	0.2	0.2	8.3

	千代川町	馬路町	旭町	千歳町	河原林町	保津町	篠町	東つつじヶ丘	西つつじヶ丘	南つつじヶ丘	無回答
	8	14	14	17	2	3	43	2	34	42	9
	2.0	3.4	3.4	4.2	0.5	0.7	10.5	0.5	8.3	10.3	2.2

居住地区としては、「亀岡地区」が26.7%と最も多く、次いで「篠町」10.5%、「南つつじヶ丘」10.3%、「大井町」、「西つつじヶ丘」ともに8.3%の順となっている。(表 1-1)

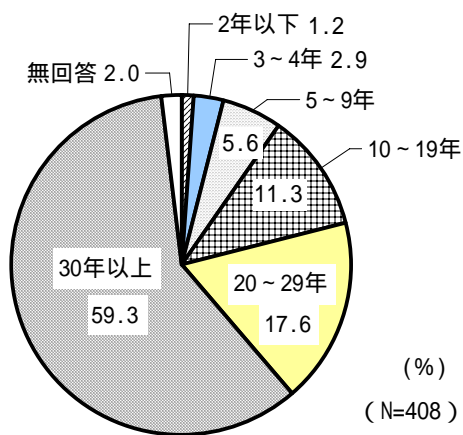
【表 1-1-1 居住地区（地域別）】

（上段：人、下段：％）

調査数	『亀岡地区』	『東別院町、西別院町、曾我部町』	『吉川町、篠田野町、大井町、千代川町』	『本梅町、畑野町、宮前町、東本梅町』	『馬路町、旭町、千歳町、河原林町、保津町』	『篠町、東つじヶ丘、西つじヶ丘、南つじヶ丘』	無回答
408	109	31	62	26	50	121	9
100.0	26.7	7.6	15.2	6.4	12.3	29.7	2.2

居住年数

【図 1-5 居住年数】

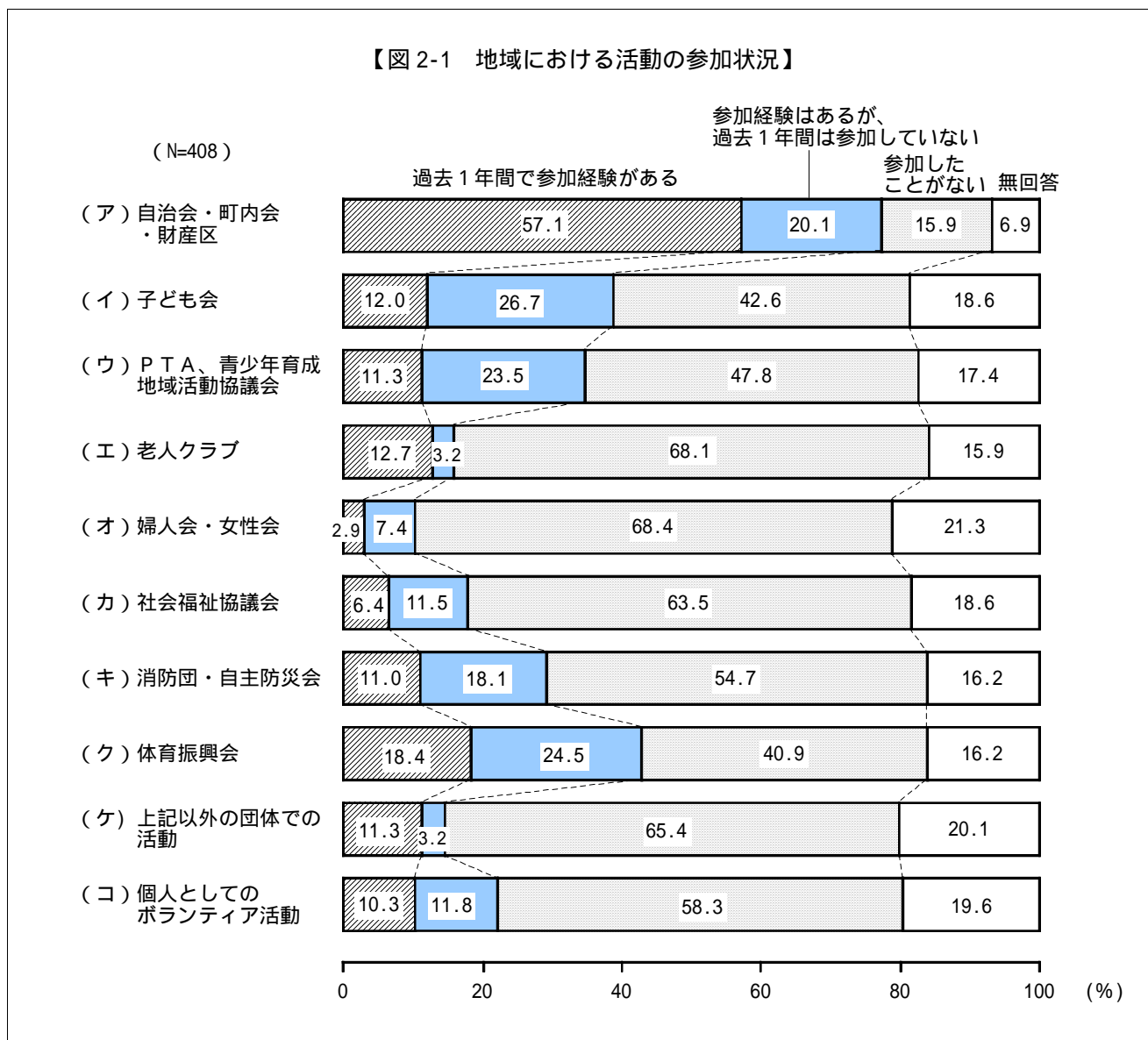


居住年数としては、「30年以上」が 59.3%を占め、次いで「20~29年」17.6%、「10~19年」11.3%となっている。合わせると10年以上が9割弱（88.2%）を占める。（図 1-5）

2. 地域コミュニティ活動について

(1) 地域における活動の参加状況

問1-1. あなたは、過去1年間で、地域で次のような活動に参加したことがありますか。
 (ア)~(コ)のそれぞれについて選んでください。(はそれぞれ1つ)

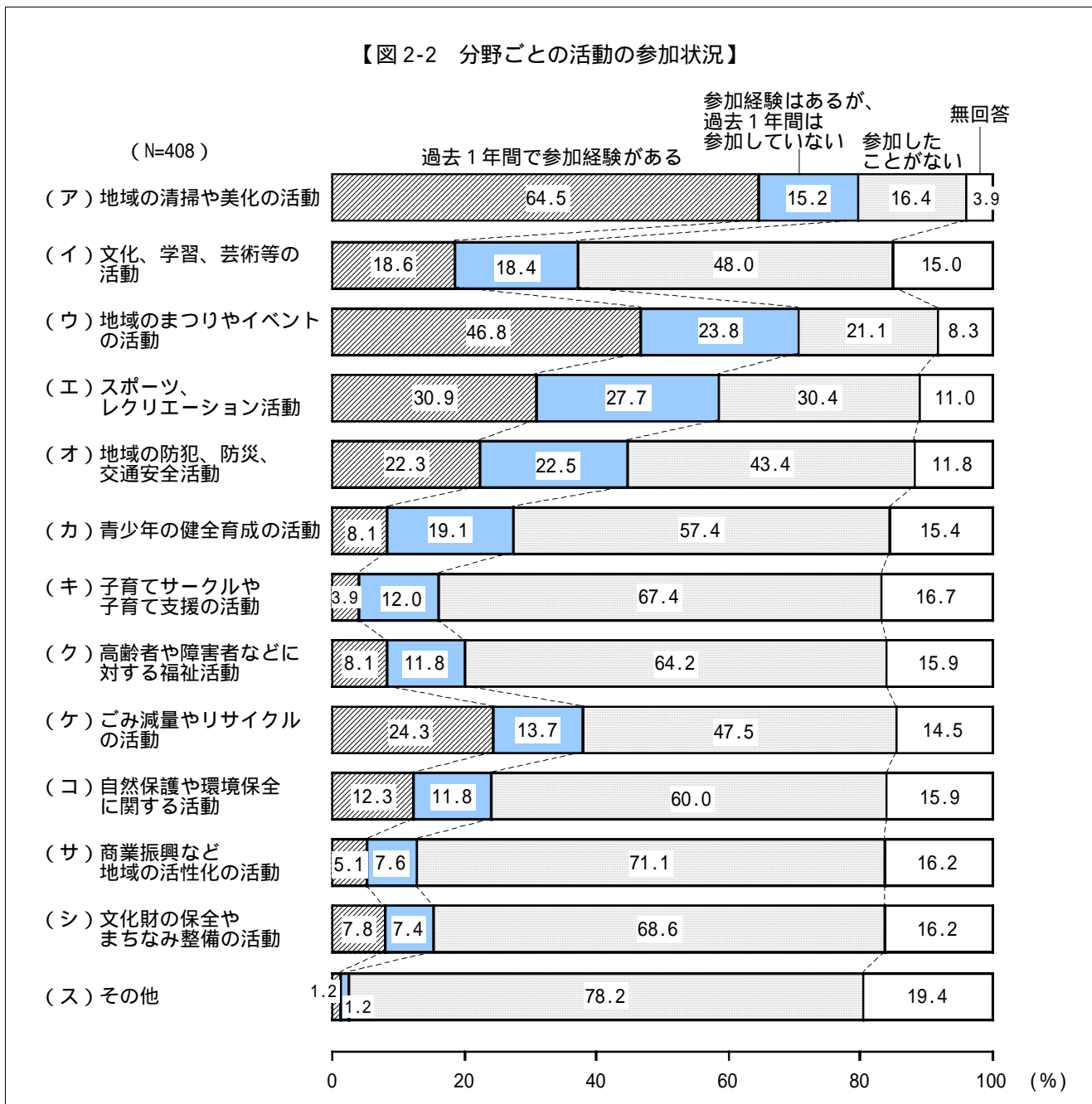


地域における活動の参加状況をたずねたところ、「過去1年間で参加経験がある」が『(ア)自治会・町内会・財産区』で57.1%と最も多くなっている。その他の活動については概ね1割前後となっており、『(ク)体育振興会』で18.4%、『(エ)老人クラブ』で12.7%、『(イ)子ども会』で12.0%などとなっている。(図2-1)

(2) 分野ごとの活動の参加状況及び不参加の理由

分野ごとの活動の参加状況

問1-2. 次のような分野の活動に参加したことがありますか。
 (ア)~(ス)のそれぞれについて選んでください。(はそれぞれ1つ)

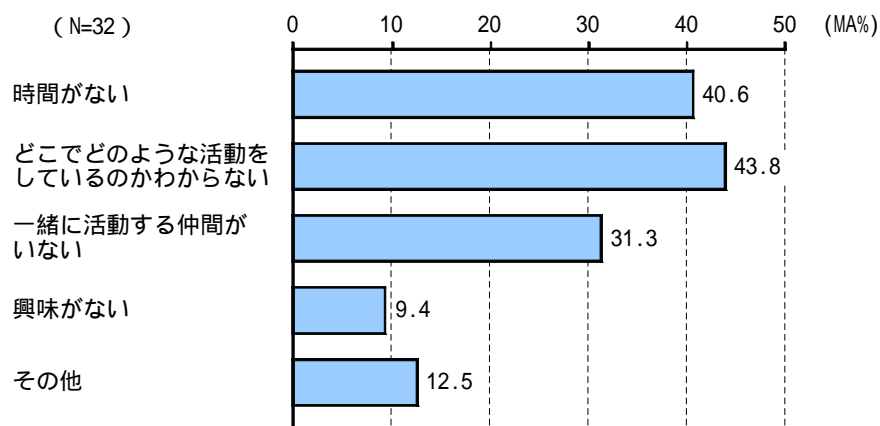


分野ごとの活動の参加状況をたずねたところ、「過去1年間で参加経験がある」が『(ア) 地域の清掃や美化の活動』で64.5%と最も多く、次いで『(ウ) 地域のまつりやイベントの活動』46.8%、『(エ) スポーツ、レクリエーション活動』30.9%、『(ケ) ごみ減量やリサイクルの活動』24.3%、『(オ) 地域の防犯、防災、交通安全活動』22.3%などとなっている。
 (図2-2)

分野ごとの活動に参加したことがない理由

問 1 - 3 . 参加したことがない理由は何ですか。(はいくつでも)

【図 2-3 分野ごとの活動に参加したことがない理由】

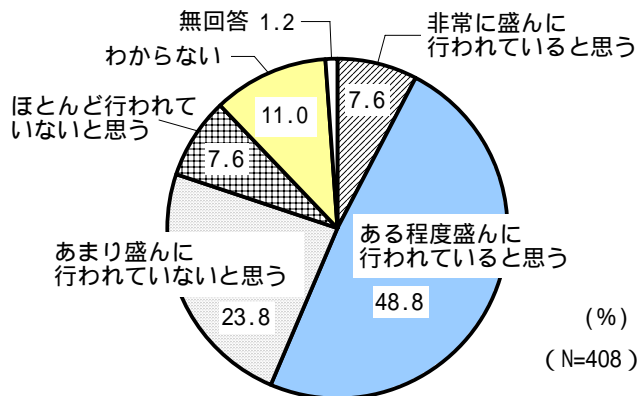


分野ごとの活動にいずれも参加したことがないと回答した人 (32 人) にその理由をたずねたところ、「どこでどのような活動をしているのかわからない」が 43.8% (14 人)、「時間がない」40.6% (13 人)、「一緒に活動する仲間がいない」31.3% (10 人)、「興味がない」9.4% (3 人) となっている。(図 2-3)

(3) 地域コミュニティ活動の取り組み状況

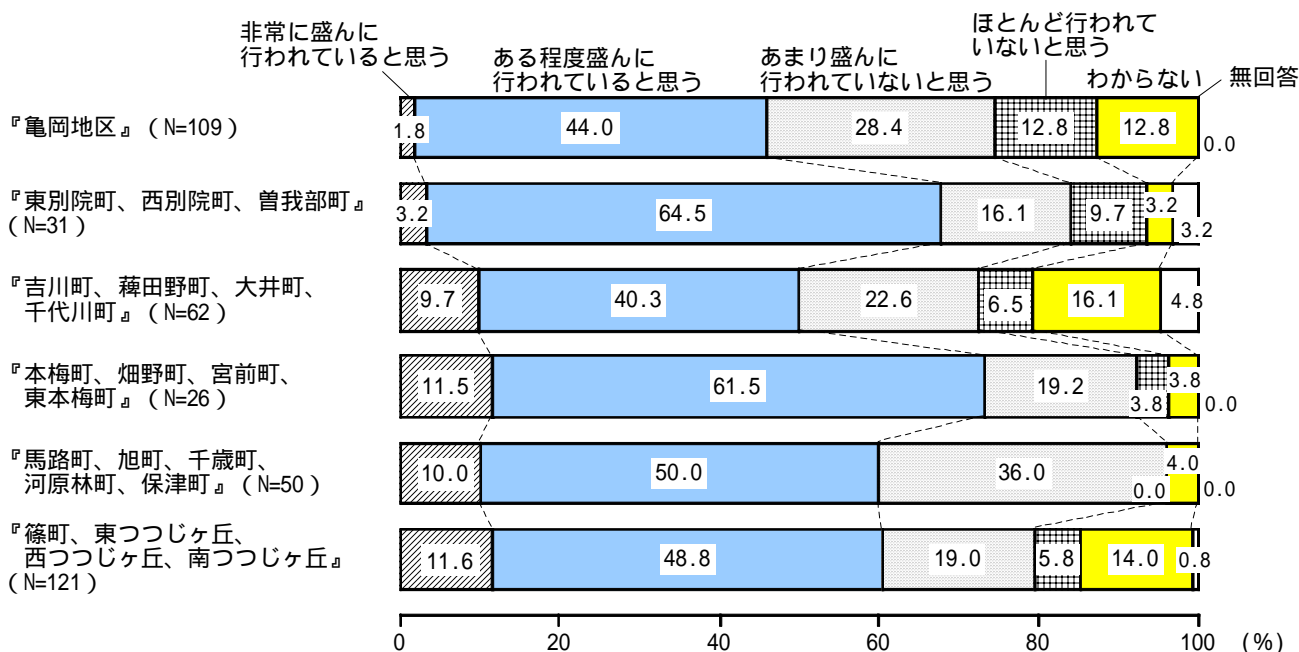
問 2 . あなたが住んでいる地域では、地域コミュニティ活動は盛んであると思いますか。
(は1つだけ)

【 図 2-4 地域コミュニティ活動の取り組み状況】



地域コミュニティ活動に対する取り組み状況をたずねたところ、「ある程度盛んに行われていると思う」が 48.8%と最も多く、「非常に盛んに行われていると思う」(7.6%) と合わせると、盛んに行われていると思うと回答した人の割合が 56.4%を占める。(図 2-4)

【 図 2-4-1 居住地区別 地域コミュニティ活動の取り組み状況】



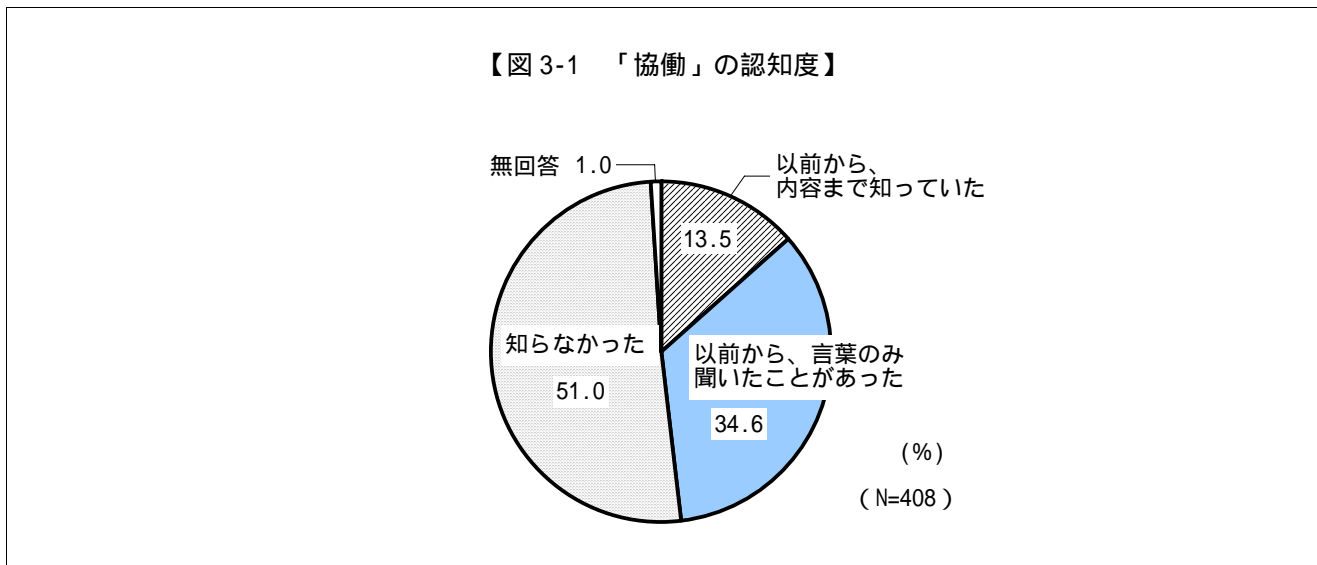
対象者の居住地区に地域コミュニティ活動の取り組み状況をみたところ、盛んに行われているという割合(「非常に盛んに行われていると思う」「ある程度盛んに行われていると思う」の計)が『本梅町、畑野町、宮前町、東本梅町』で 73.0%、『東別院町、西別院町、曾我部町』で 67.7%と、他の地区と比べて高くなっている。(図 2-4-1)

3 . 協働とNPOの理解度と活動について

(1) 「協働」の認知度及び学習の状況

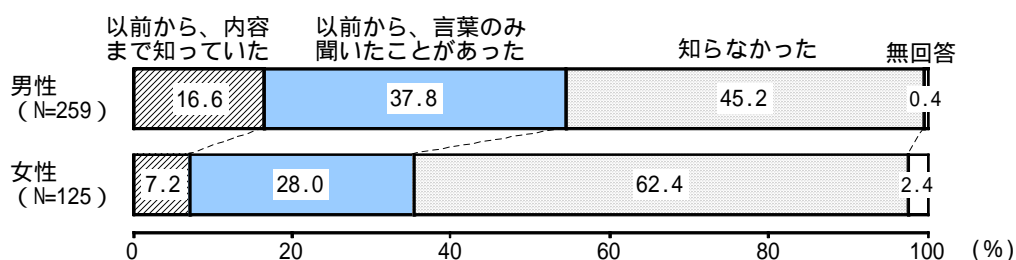
「協働」の認知度

問3 . あなたは、今回のアンケート調査の前から「協働」という言葉を知っていましたか。
(は1つだけ)



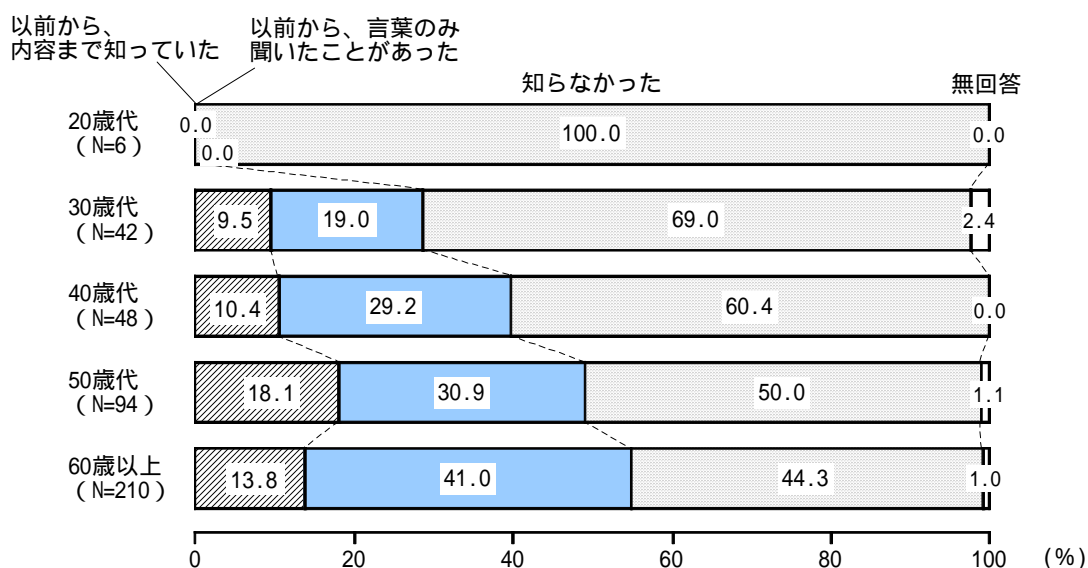
“協働”についての認知度としては、「知らなかった」が 51.0%と最も多く、次いで多い「以前から、言葉のみ聞いたことがあった」(34.6%) を合わせると、“協働”の内容は知らないという割合が 85.6%を占める。一方、「以前から、内容まで知っていた」は 13.5%となっている。(図 3-1)

【図 3-1-1 性別 「協働」の認知度】



対象者の性別に“協働”の認知度をみたところ、「以前から、内容まで知っていた」が男性で 16.6%、女性で 7.2%、「知らなかった」が男性で 45.2%、女性で 62.4%と男女間で差がみられる。(図 3-1-1)

【図 3-1-2 年代別 「協働」の認知度】

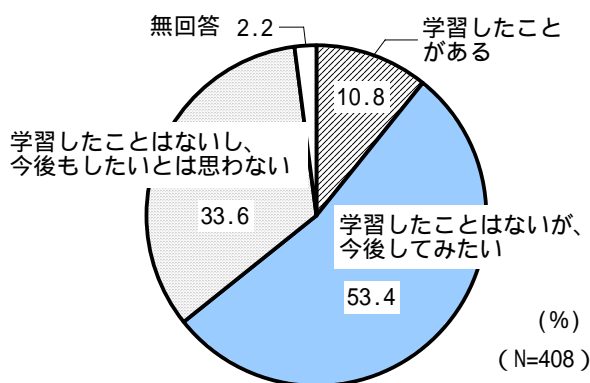


対象者の年齢構成別に“協働”の認知度をみたとところ、概ね年齢が上がるにしたがって、認知度は高くなる傾向にある。(図 3-1-2)

「協働」についての学習状況

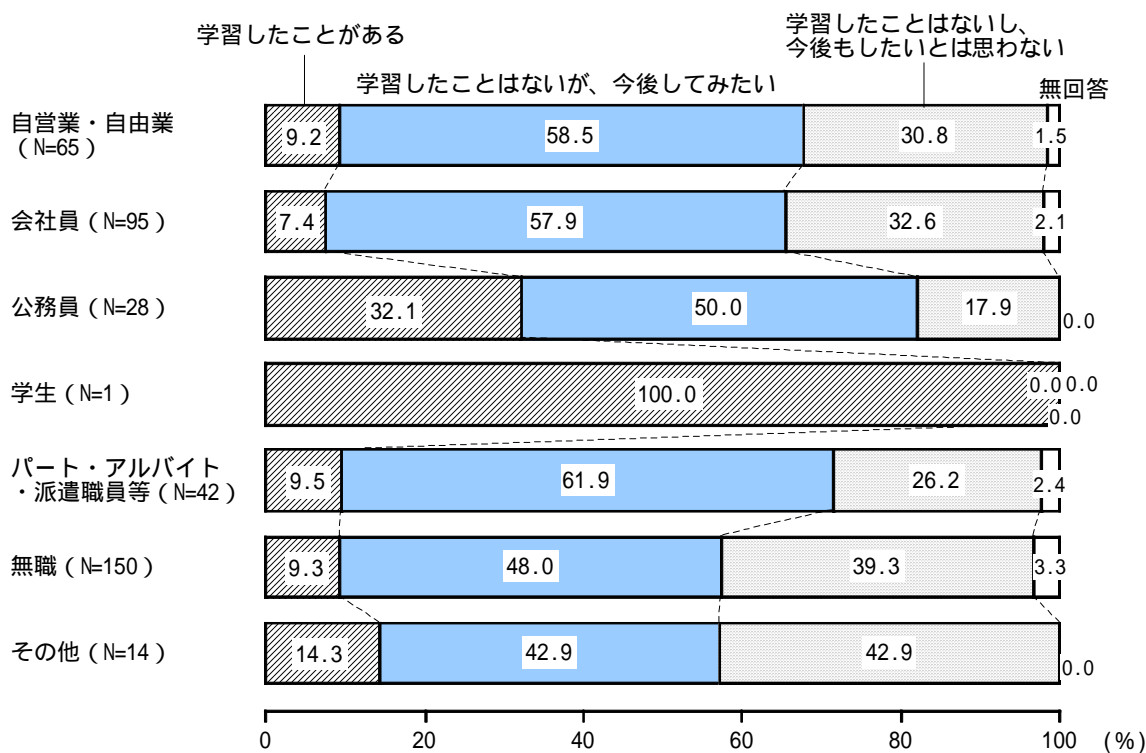
問 4 . あなたは、「協働とは何か」について研修などで学習されたことがありますか。また、今後は学習してみたいと思いますか。(は1つだけ)

【図 3-2 「協働」についての学習状況】



“協働”についての学習の有無及び意向をたずねたところ、「学習したことがある」が 10.8%、「学習したことはないが、今後してみたい」が 53.4%、「学習したことはないし、今後もしないとは思わない」が 33.6%となっている。(図 3-2)

【図 3-2-1 職業別 「協働」 についての学習状況】



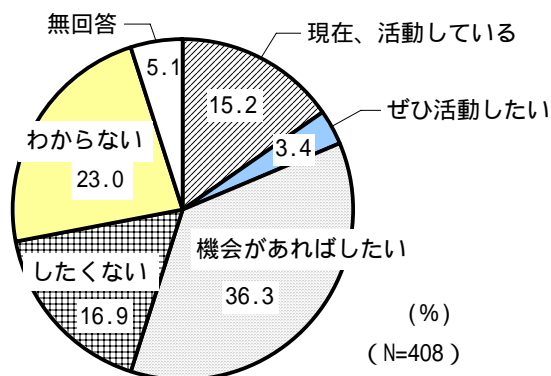
対象者の職業別に“協働”についての学習の有無及び意向をみたところ、「学習したことがある」が「公務員」で 32.1%と高く、「学習したことはないが、今後してみたい」が就労している人で5～6割台となっている。一方、「学習したことはないし、今後したいとは思わない」が無職で約4割（39.3%）と高くなっている。（図 3-2-1）

(2) まちづくりに向けた活動

まちづくりに向けた活動に対する意向

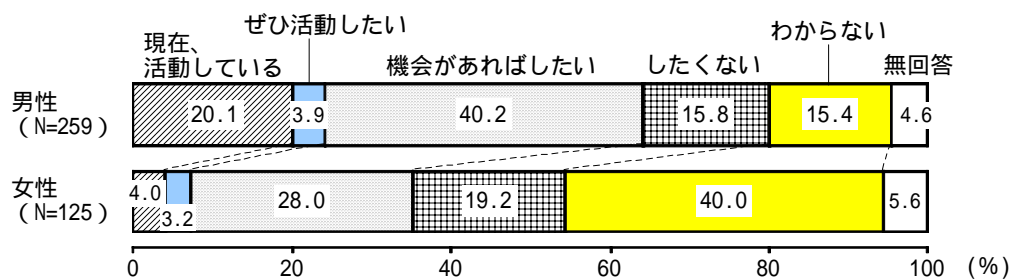
問5 あなたは今後、まちづくりに向けた活動をしたいと思いますか。(は1つだけ)

【図 3-3 まちづくりに向けた活動に対する意向】



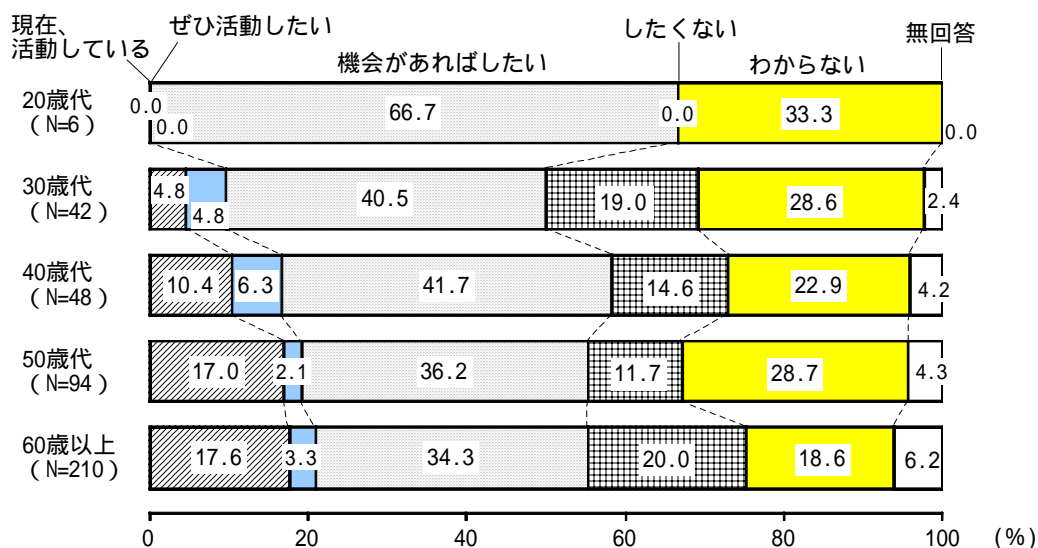
まちづくりに向けた活動に対する今後の意向をたずねたところ、「機会があればしたい」が36.3%と最も多く、「現在、活動している」(15.2%)、「ぜひ活動したい」(3.4%)を合わせると、現在活動しているまたは今後活動意向のある人の割合は54.9%となっている。(図 3-3)

【図 3-3-1 性別 まちづくりに向けた活動に対する意向】



対象者の性別にまちづくりに向けた活動に対する今後の意向をみたところ、「現在、活動している」が男性で20.1%、女性で4.0%、「機会があればしたい」が男性で40.2%、女性で28.0%と、男女間で差がみられる。(図 3-3-1)

【図 3-3-2 年代別 まちづくりに向けた活動に対する意向】



対象者の年齢構成別にまちづくりに向けた活動に対する今後の意向をみたところ、「現在、活動している」割合は年齢が上がるにしたがって高くなる傾向にある。(図 3-3-2)

まちづくりに向けた活動内容

問 5 - 1 . 具体的にどのような活動をしたいですか。

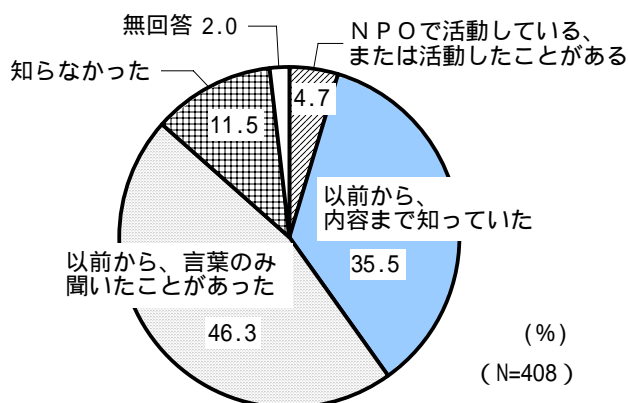
【表 3-1 まちづくりに向けた活動内容】

【 活動内容 】	【 件数 】
地域の美化活動、清掃活動	26 件
自然環境の保全、里山の整備	14 件
子どもの見守り活動（登下校の見守り、パトロール等）	13 件
地域の防犯・治安、モラルの向上	8 件
高齢者を対象とした活動（見守り、話相手等）	7 件
地域活動への参加促進に向けた取り組み	3 件
イベント・レクリエーション活動等への参加	3 件
農業振興に関する活動	3 件
文化保全活動	2 件
その他（様々な活動をしたい、特に決まっていない等）	32 件

(3)「NPO」の認知度

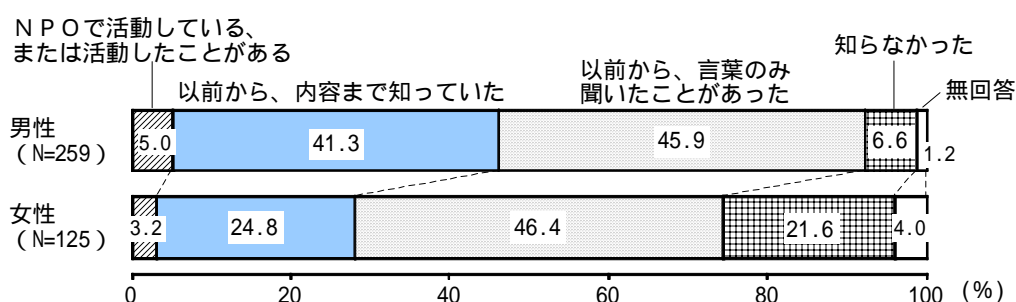
問6 あなたは、今回のアンケート調査の前から「NPO」について知っていましたか。
(は1つだけ)

【図 3-4 「NPO」の認知度】



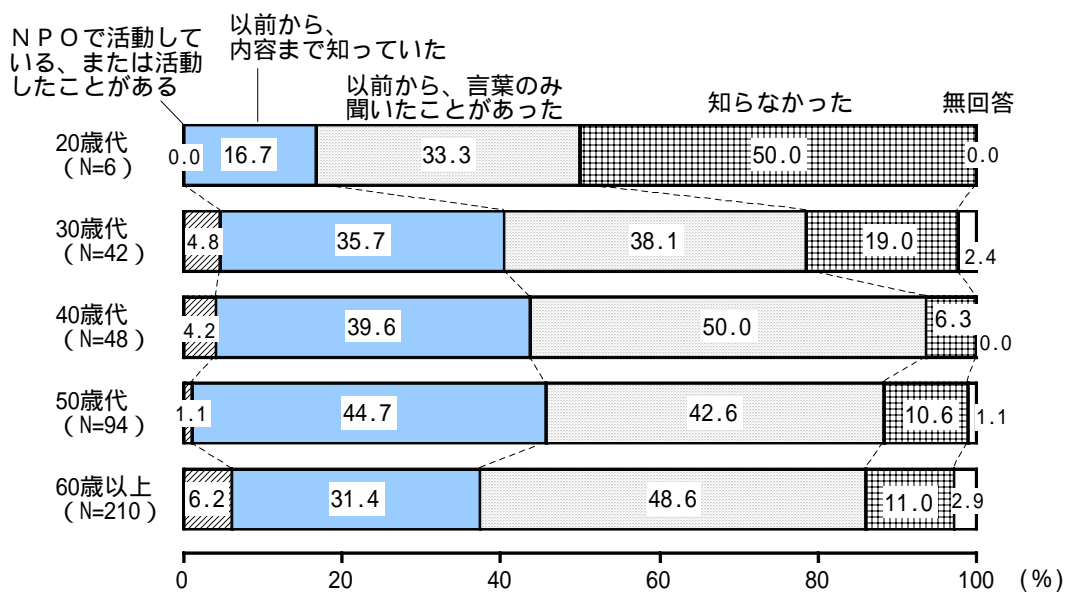
“NPO”についての認知度としては、「以前から、言葉のみ聞いたことがあった」が46.3%と最も多く、「知らなかった」(11.5%)を合わせると、NPOの内容については知らないという割合が57.8%を占める。一方、「以前から、内容まで知っていた」は35.5%、「NPOで活動している、または活動したことがある」は4.7%となっている。(図3-4)

【図 3-4-1 性別 「NPO」の認知度】



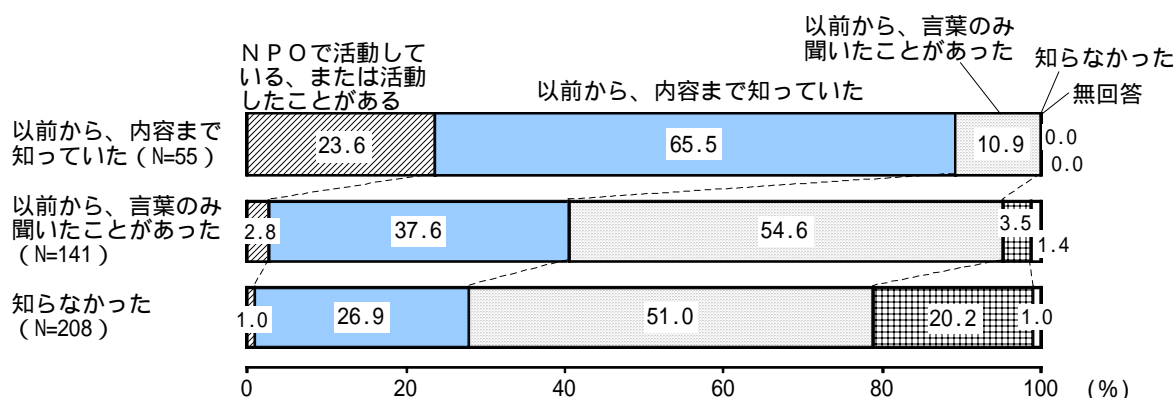
対象者の性別に“NPO”の認知度をみたと、内容まで知っている人の割合(「NPOで活動している、または活動したことがある」「以前から、内容まで知っていた」の計)が男性で46.3%、女性で28.0%、「知らなかった」が男性で6.6%、女性で21.6%と、男女間で差がみられる。(図3-4-1)

【図 3-4-2 年代別 「NPO」の認知度】



対象者の年齢構成別に“NPO”の認知度をみたとところ、内容まで知っている人の割合(「NPOで活動している、または活動したことがある」「以前から、内容まで知っていた」の計)が30~50歳代で4割台と高くなっている。(図3-4-2)

【図 3-4-3 「協働」の認知度別 「NPO」の認知度】



“協働”の認知度別に“NPO”の認知度をみたとところ、協働について以前から内容まで知っていた人で「NPOで活動している、または活動したことがある」が23.6%、「以前から、内容まで知っていた」が65.5%と高くなっている。(図3-4-3)

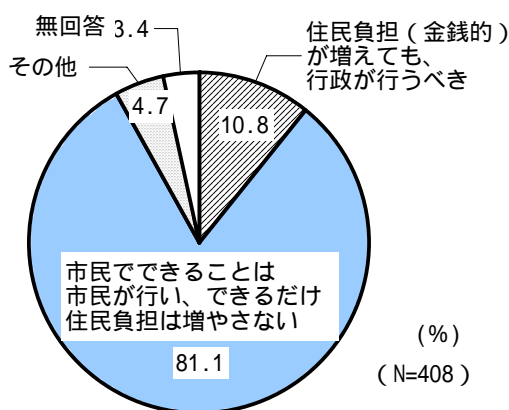
4.「協働」の進め方について

(1) 公共サービスに対する意向

公共サービスに対する負担

問7 あなたは、住民負担（金銭的）が増えても公共サービスは行政が行うべきだと思いますか。
(は1つだけ)

【図 4-1 公共サービスに対する負担】

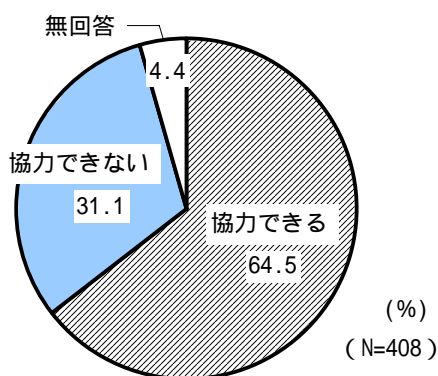


公共サービスに対する住民負担（金銭的）の考えをたずねたところ、「住民負担（金銭的）が増えても、行政が行うべき」が 10.8%に対し、「市民でできることは市民が行い、できるだけ住民負担は増やさない」が 81.1%を占めている。(図 4-1)

公共サービス提供に対する協力

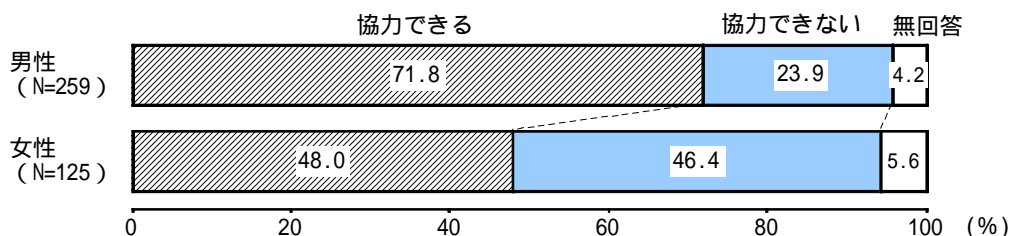
問8 あなたは、自分の持つ知識や経験、あるいは時間的なゆとりを活かして公共サービスの提供に協力できますか。(は1つだけ)

【図 4-2 公共サービスの提供に対する協力の有無】



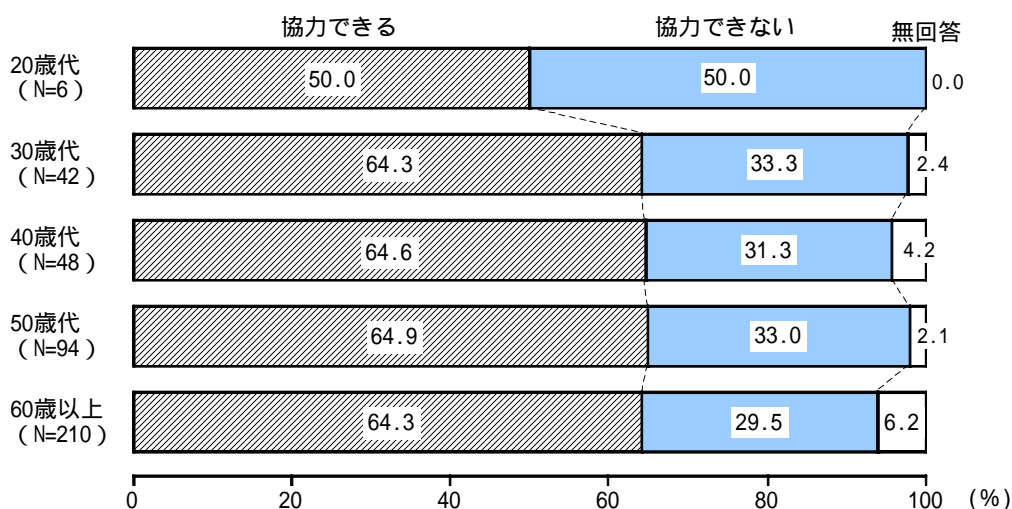
公共サービスの提供に対して協力できるかについてたずねたところ、「協力できる」が64.5%に対し、「協力できない」が31.1%となっている。(図 4-2)

【図 4-2-1 性別 公共サービスの提供に対する協力の有無】



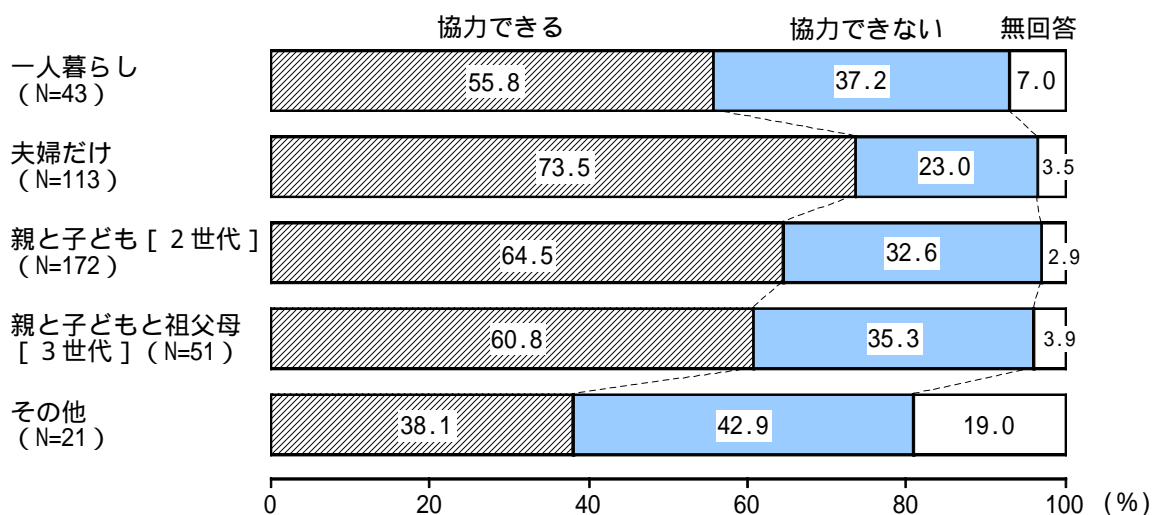
対象者の性別に公共サービスの提供に対して協力できるかをみたところ、「協力できる」が男性で71.8%に対し、女性で48.0%、「協力できない」が男性で23.9%に対し、女性で46.4%と男女間で差がみられる。(図 4-2-1)

【図 4-2-2 年代別 公共サービスの提供に対する協力の有無】



対象者の年齢構成別に公共サービスの提供に対して協力できるかをみたところ、年齢構成別による割合の差はさほど見られない。(図 4-2-2)

【図 4-2-3 家族構成別 公共サービスの提供に対する協力の有無】

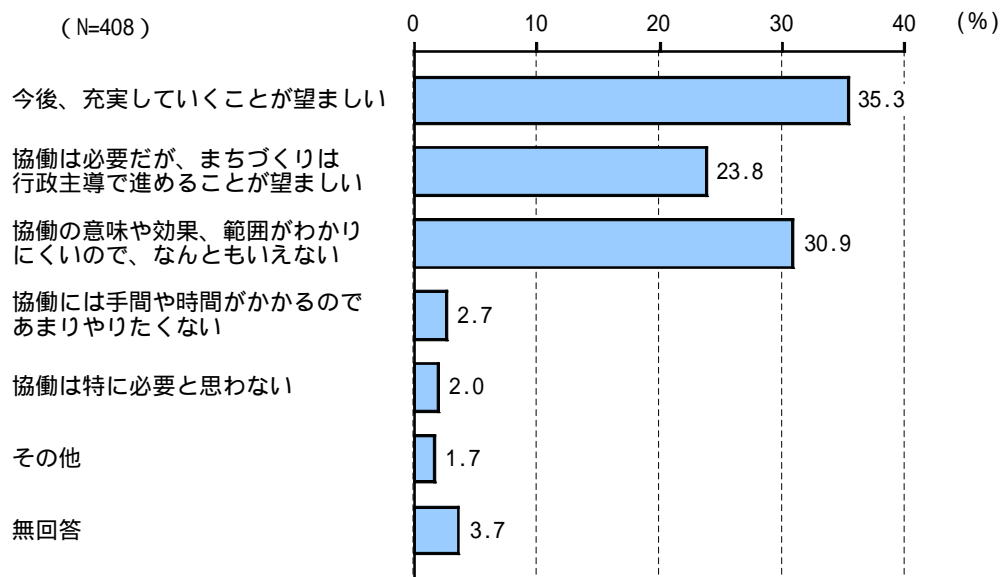


家族構成別に公共サービスの提供に対して協力できるかをみたところ、「協力できる」が夫婦だけの世帯で 73.5%と最も高い。一方、「協力できない」が一人暮らし世帯で 37.2%と最も高くなっている。(図 4-2-3)

(2) 協働によるまちづくりに対する考え

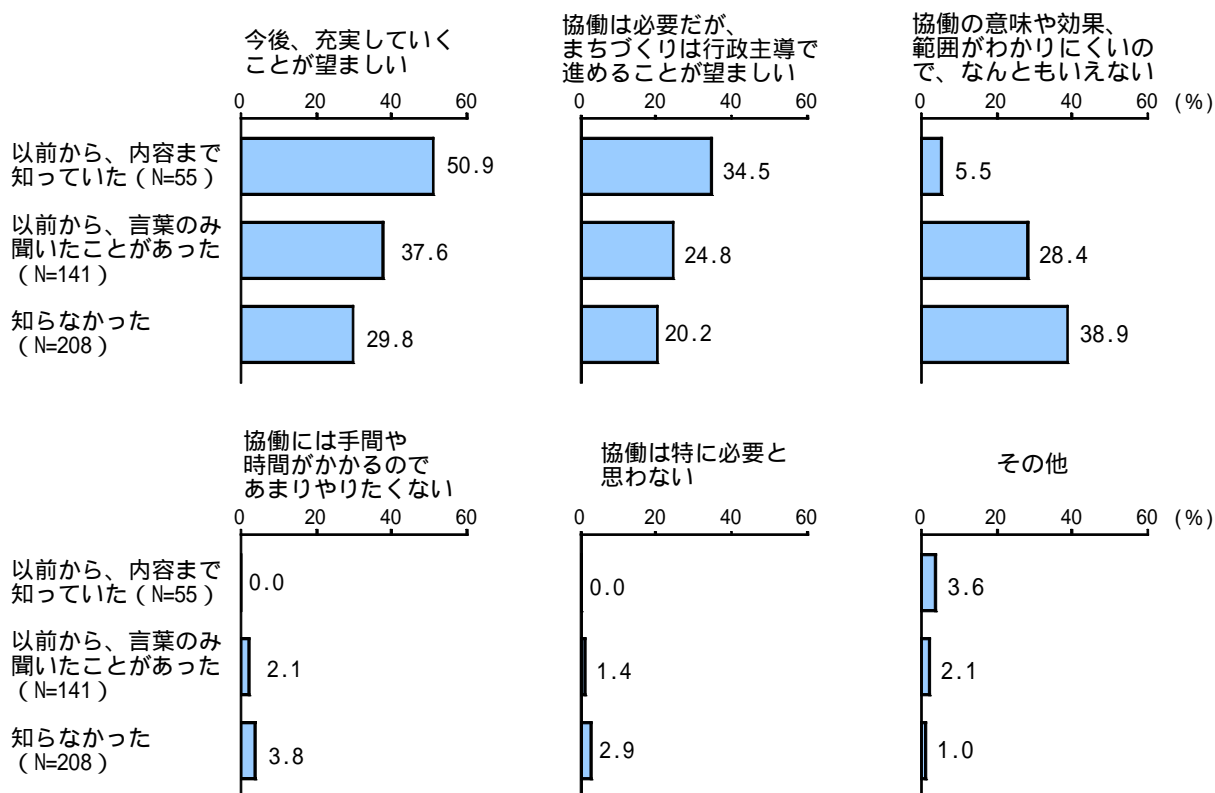
問9 亀岡市では、市民と行政の協働によるまちづくりを進めています。このことについてどのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(は1つだけ)

【図 4-3 協働によるまちづくりに対する考え】



市民と行政の協働によるまちづくりについての考えをたずねたところ、「今後、充実していくことが望ましい」が35.3%と最も多く、次いで「協働の意味や効果、範囲がわかりにくいので、なんともいえない」30.9%、「協働は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい」23.8%などとなっている。(図 4-3)

【図 4-3-1 「協働」の認知度別 協働によるまちづくりに対する考え】

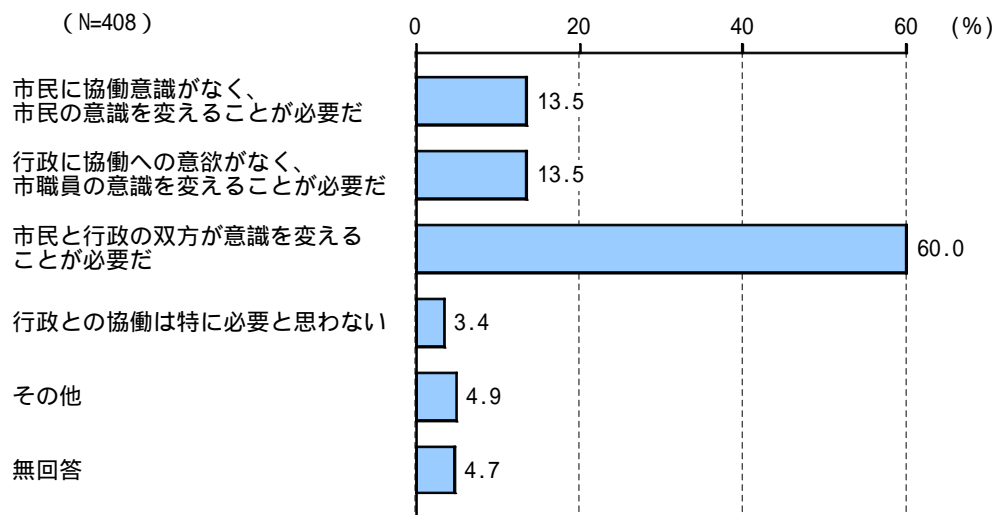


“協働”の認知度別に市民と行政の協働によるまちづくりについての考えをみたところ、協働について以前から内容まで知っていたという人で「今後、充実していくことが望ましい」が50.9%、「協働は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい」が34.5%とそれぞれ最も高くなっている。(図 4-3-1)

(3) 協働のまちづくりにおける意識改革の必要性

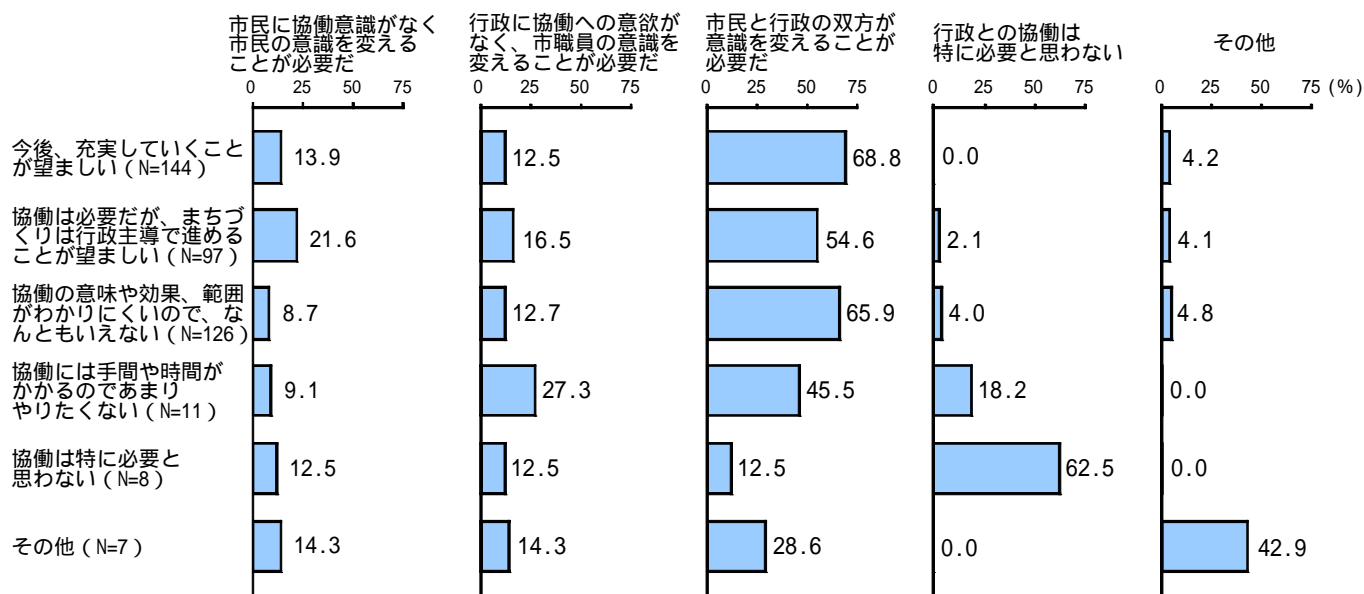
問 10 あなたは、亀岡市で協働のまちづくりを進めていくにあたって、現在の市民と行政の意識についてどのように考えますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。
(は1つだけ)

【図 4-4 協働のまちづくりにおける意識改革の必要性】



協働のまちづくりを進めていくにあたって、市民と行政の意識についての考えをたずねたところ、「市民と行政の双方が意識を変えることが必要だ」が6割(60.0%)を占めている。
(図 4-4)

【図 4-4-1 協働によるまちづくりに対する考え別 協働のまちづくりにおける意識改革の必要性】

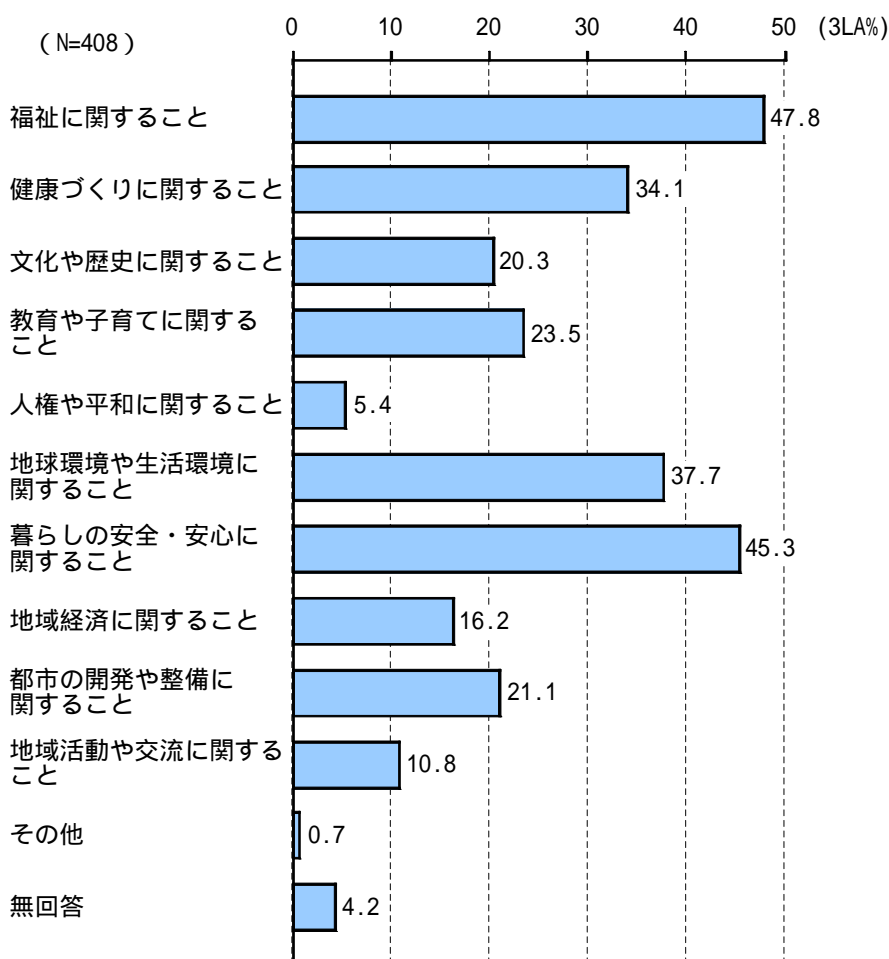


協働によるまちづくりに対する考え別に協働のまちづくりにおける意識改革の必要性をみたところ、協働によるまちづくりに対して、今後充実していくことが望ましいと考える人において「市民と行政の双方が意識を変えることが必要だ」が 68.8%と最も高くなっている。(図 4-4-1)

(4) 協働で取り組むことが必要(有効)な分野

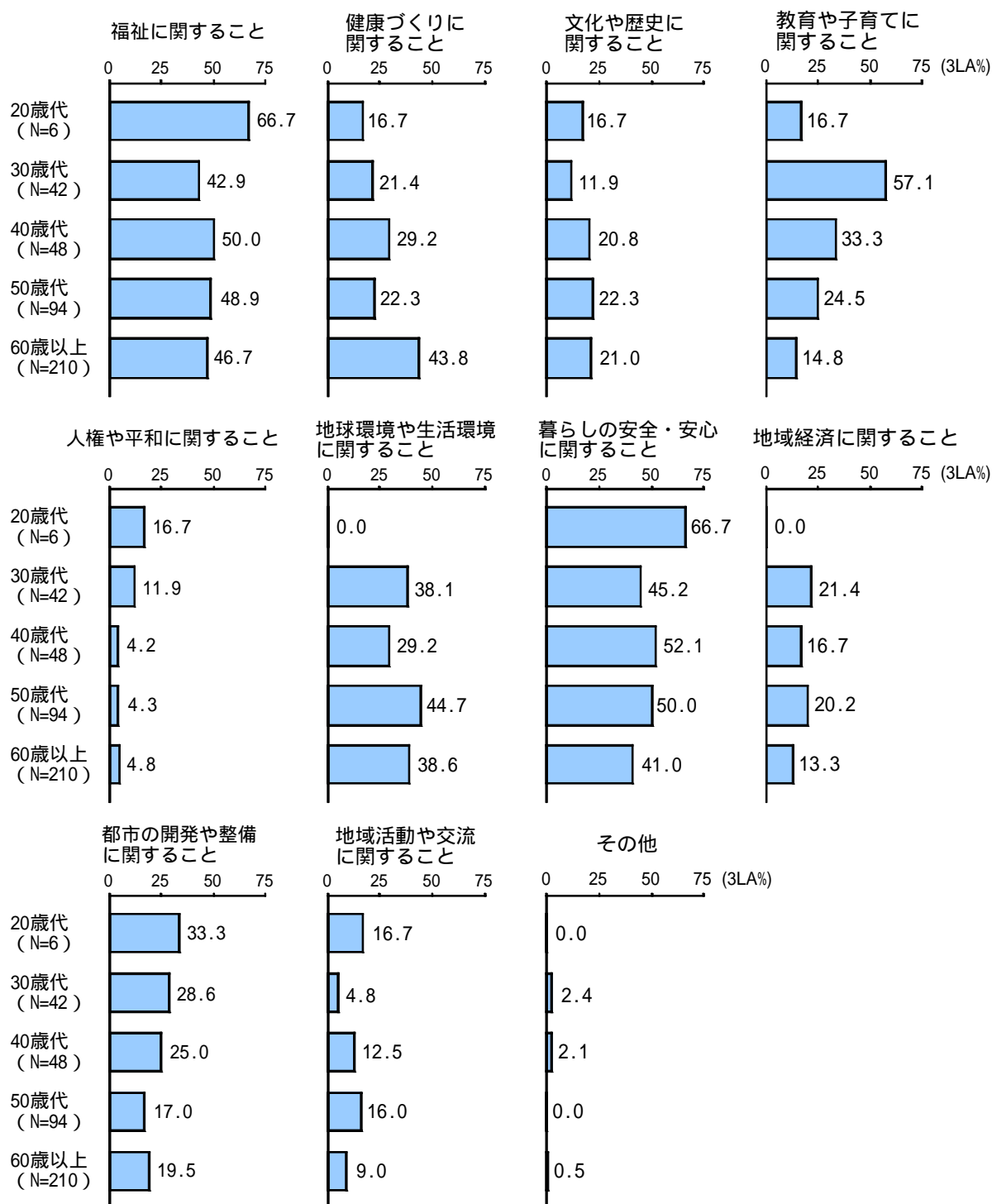
問 11 次の取り組みのうち、特に市民と行政が協働で取り組むことが必要、あるいは有効なのはどのような分野だと思いますか。(は3つまで)

【図 4-5 協働で取り組むことが必要(有効)な分野】



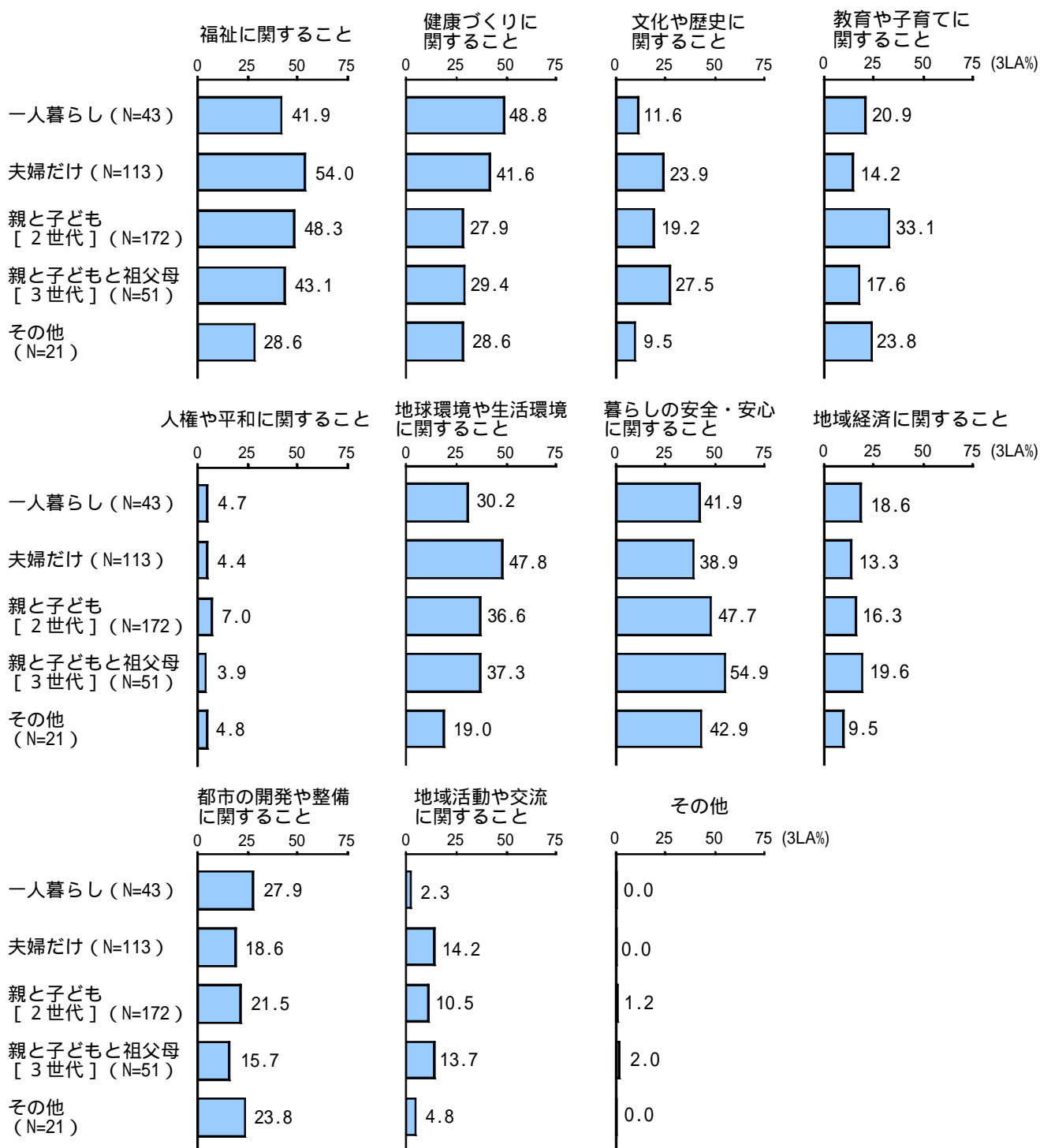
市民と行政が協働で取り組むことが必要(有効)と考える分野についてたずねたところ、「福祉に関すること」が47.8%、「暮らしの安全・安心に関すること」が45.3%と多く、次いで「地球環境や生活環境に関すること」37.7%、「健康づくりに関すること」34.1%などとなっている。(図 4-5)

【図 4-5-1 年代別 協働で取り組むことが必要（有効）な分野】



対象者の年齢構成別に市民と行政が協働で取り組むことが必要（有効）と考える分野についてみたところ、「健康づくりに関すること」が60歳以上で43.8%、「教育や子育てに関すること」が30歳代で57.1%とそれぞれ他の年齢層と比べて高くなっている。（図 4-5-1）

【図 4-5-2 家族構成別 協働で取り組むことが必要（有効）な分野】



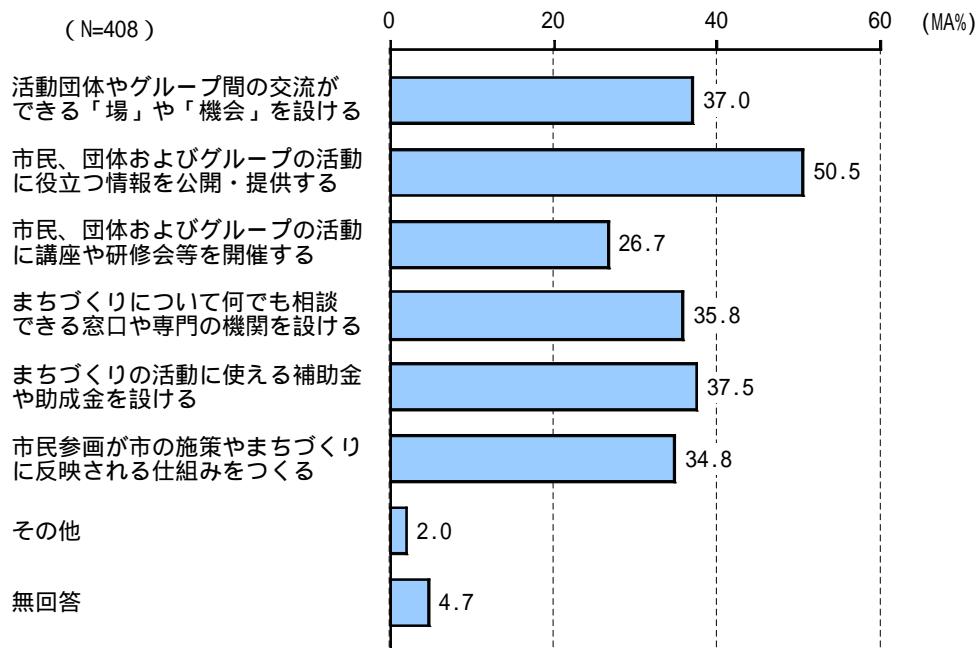
家族構成別に市民と行政が協働で取り組むことが必要（有効）と考える分野についてみたところ、一人暮らし世帯で「健康づくりに関すること」が48.8%、夫婦だけの世帯で「地球環境や生活環境に関すること」が47.8%、2世代世帯で「教育や子育てに関すること」が33.1%、3世代世帯で「暮らしの安全・安心に関すること」が54.9%と、それぞれ他の家族構成と比べて高くなっている。（図 4-5-2）

(5) 協働によるまちづくりに向けて行政及び市民に求められること

協働によるまちづくりに向けて行政に求められること

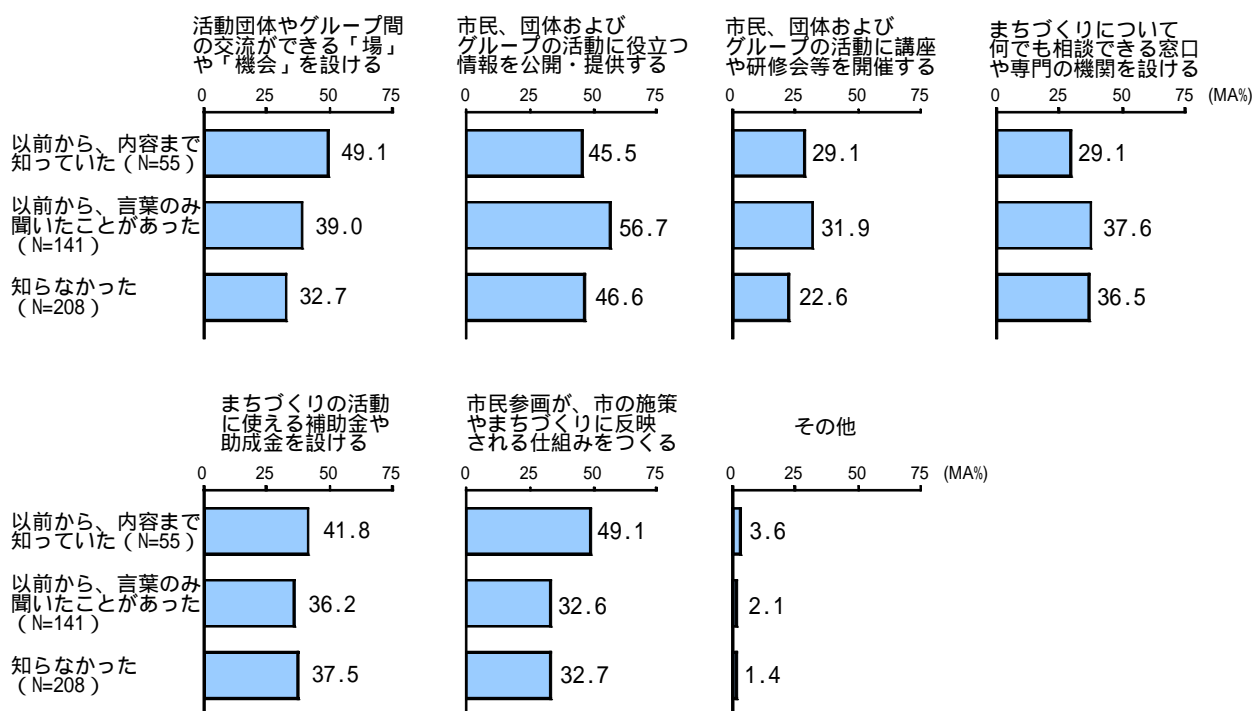
問 12 協働によるまちづくりを進めるために、行政は具体的にどのようなことをすればよいと思いますか。(はいいくつでも)

【図 4-6 協働によるまちづくりに向けて行政に求められること】



協働によるまちづくりを進めるために行政に求められることをたずねたところ、「市民、団体およびグループの活動に役立つ情報を公開・提供する」が50.5%と最も多く、次いで「まちづくりの活動に使える補助金や助成金を設ける」37.5%、「活動団体やグループ間の交流ができる「場」や「機会」を設ける」37.0%などとなっている。(図 4-6)

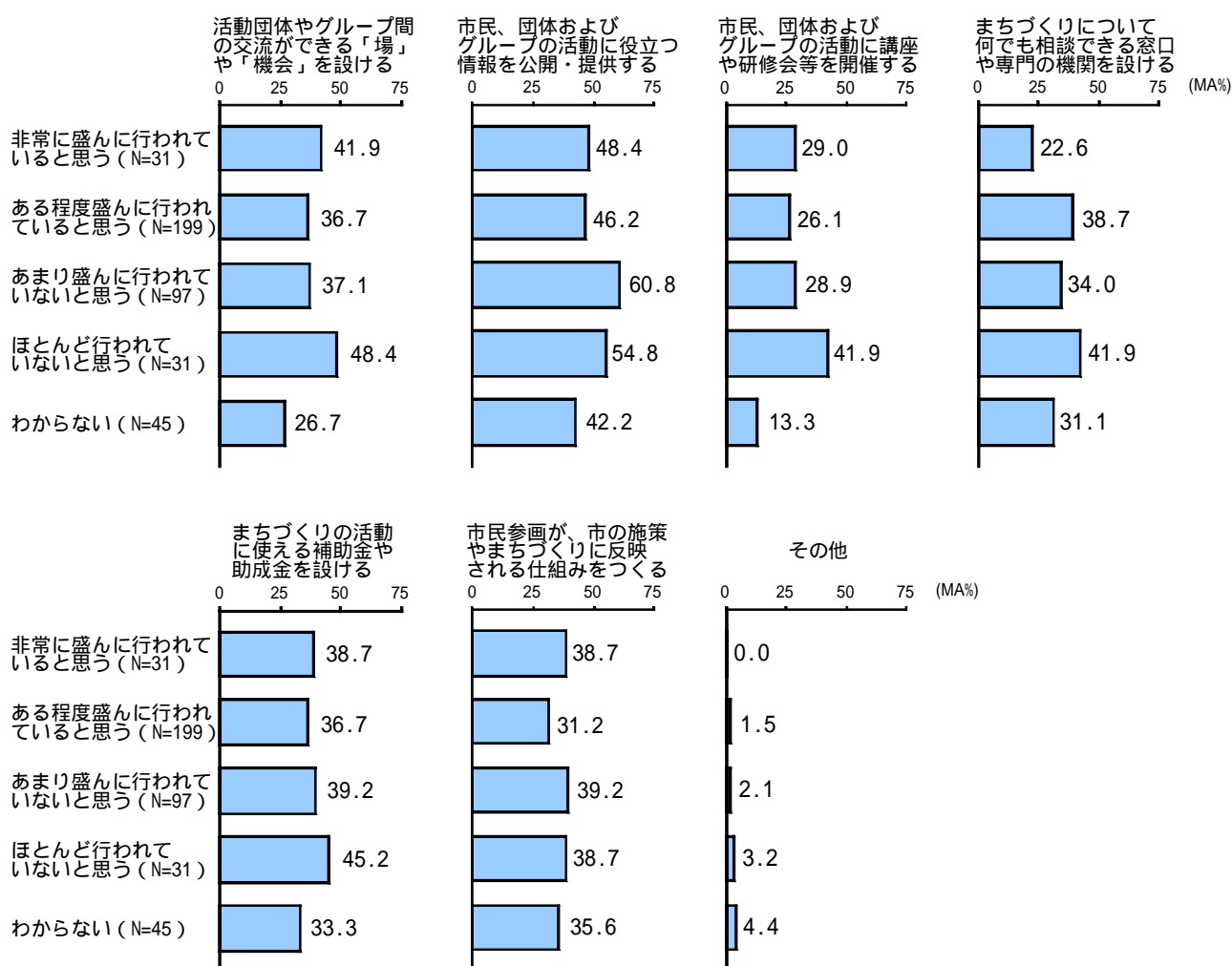
【図 4-6-1 「協働」の認知度別 協働によるまちづくりに向けて行政に求められること】



“協働”の認知度別に協働によるまちづくりを進めるために行政に求められることをみたところ、協働について以前から内容まで知っていた人において、「活動団体やグループ間の交流ができる“場”や“機会”を設ける」が49.1%、「まちづくりの活動に使える補助金や助成金を設ける」が41.8%、「市民参画が、市の施策やまちづくりに反映される仕組みをつくる」が49.1%と、それぞれ最も高くなっている。(図 4-6-1)

【図 4-6-2 地域コミュニティ活動の取り組み状況別

協働によるまちづくりに向けて行政に求められること】

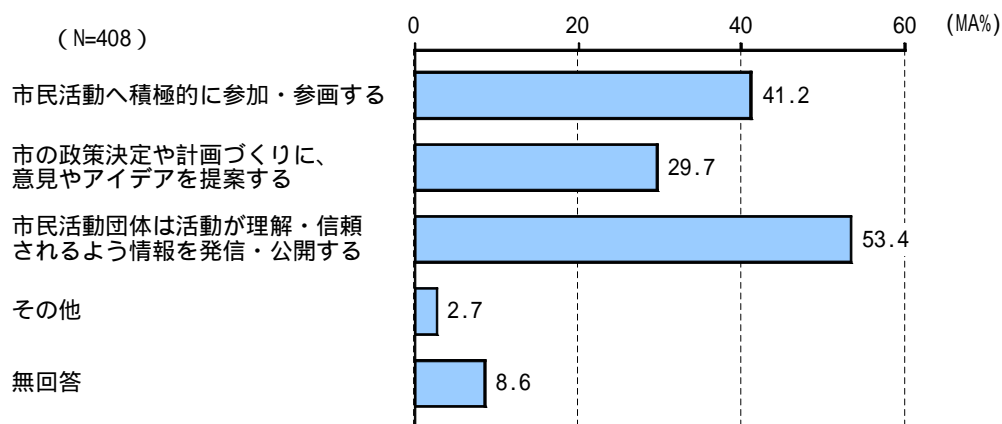


地域コミュニティ活動の取り組み状況別に協働によるまちづくりを進めるために行政に求められることをみたところ、概ねいずれの項目においても、地域コミュニティ活動の取り組みについてほとんど行われていないと思う人、あまり盛んに行われていないと思う人で割合が高くなっており、特に「市民、団体およびグループの活動に役立つ情報を公開・提供する」が5～6割台となっている。(図 4-6-2)

協働によるまちづくりに向けて市民に求められること

問 13 協働によるまちづくりを進めるために、市民(あなた)は具体的にどのようなことをすればよいと思いますか。(はいいくつでも)

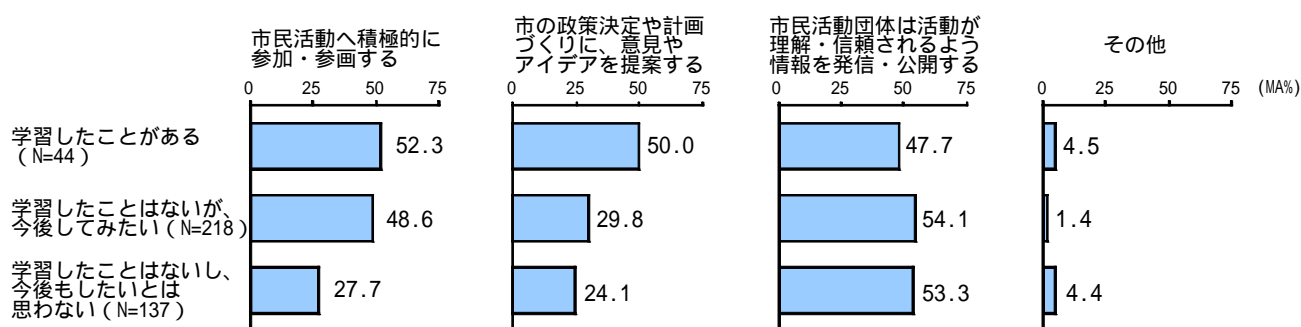
【図 4-7 協働によるまちづくりに向けて市民に求められること】



協働によるまちづくりを進めるために市民に求められることをたずねたところ、「市民活動団体は活動が理解・信頼されるよう情報を発信・公開する」が53.4%と最も多く、次いで「市民活動へ積極的に参加・参画する」41.2%、「市の政策決定や計画づくりに、意見やアイデアを提案する」29.7%となっている。(図 4-7)

【図 4-7-1 「協働」についての学習状況別

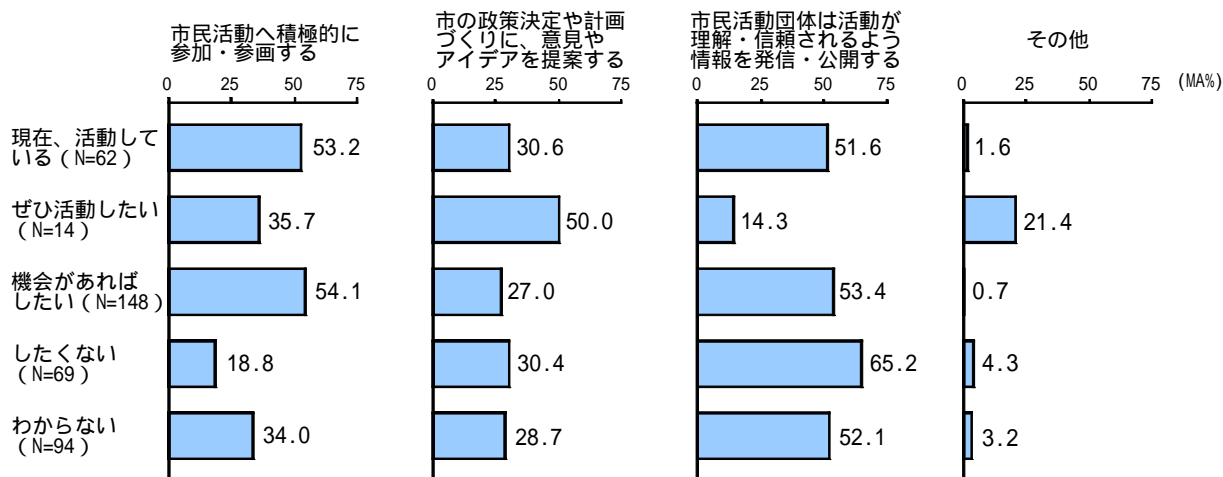
協働によるまちづくりに向けて市民に求められること】



“協働”についての学習状況別に協働によるまちづくりに向けて市民に求められることをみたところ、「市の政策決定や計画づくりに、意見やアイデアを提案する」で意識に大きな差がみられ、協働について学習経験がある人で50.0%と最も高くなっている。(図 4-7-1)

【図 4-7-2 まちづくりに向けた活動に対する意向別

協働によるまちづくりに向けて市民に求められること】

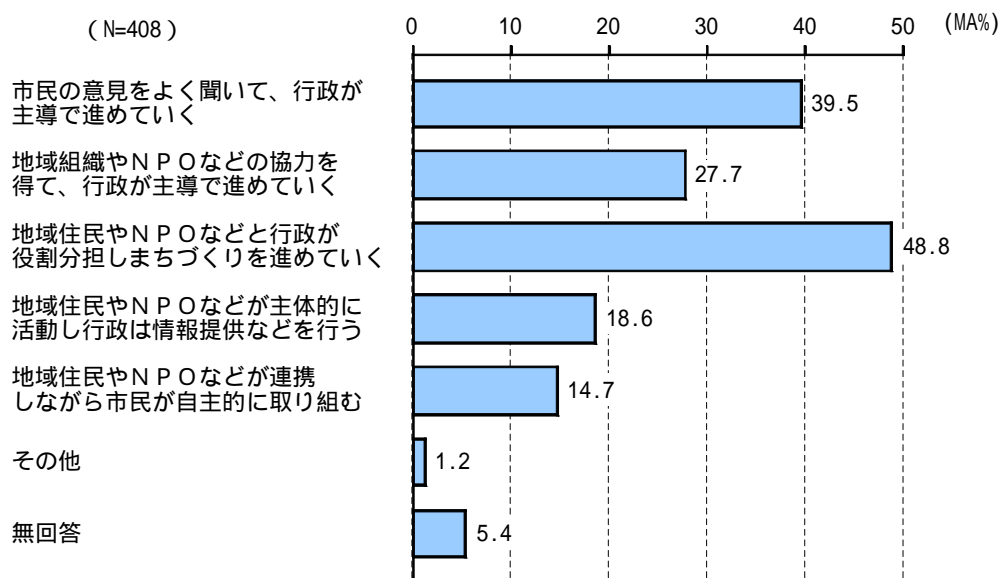


まちづくりに向けた活動に対する意向別に協働によるまちづくりに向けて市民に求められることをみたところ、「市民活動へ積極的に参加・参画する」がまちづくりに向けた活動を現在している人で53.2%、機会があればしたいという人で54.1%、「市民活動団体は活動が理解・信頼されるよう情報を発信・公開する」がまちづくりに向けた活動をしたくないという人で65.2%と、それぞれ高くなっている。(図 4-7-2)

(6) より良いまちづくりのために重要と考える取り組み体制

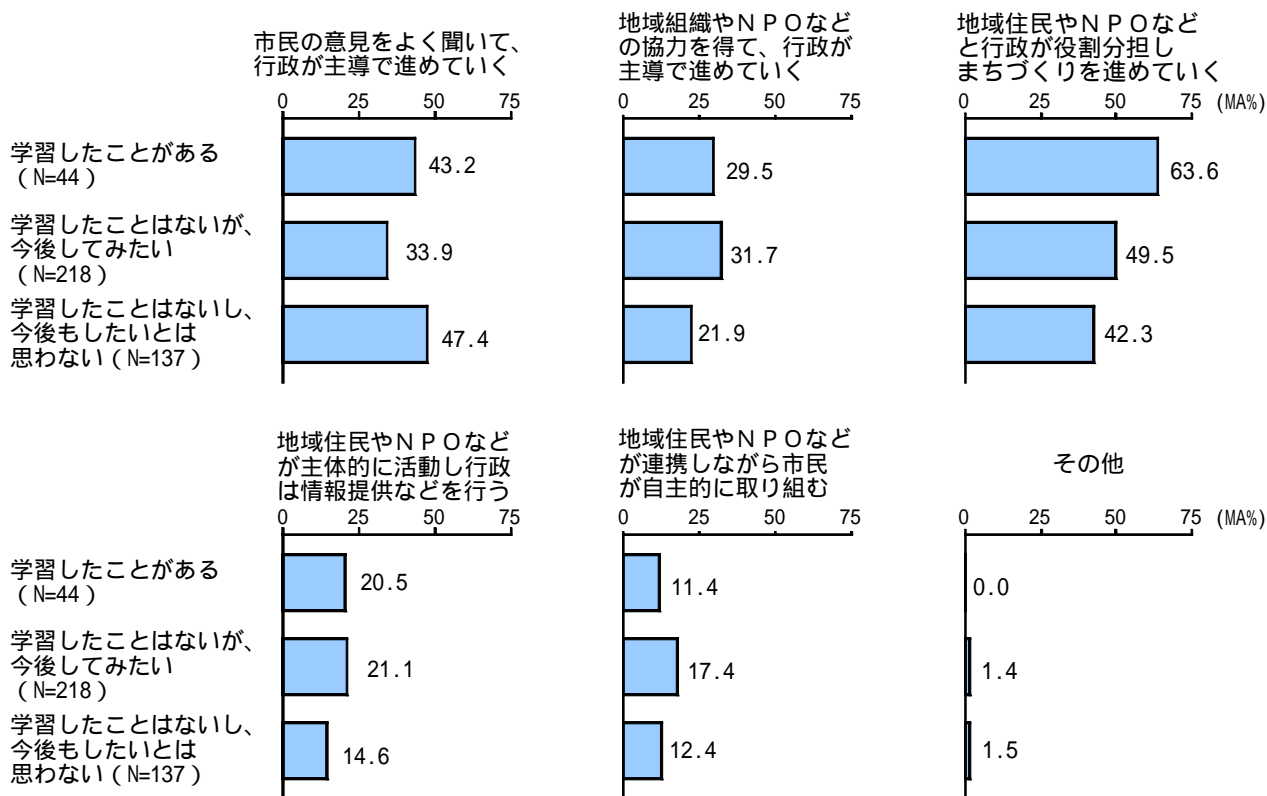
問 14 今後、より良いまちをつかっていくためには、市民と行政がどのように取り組むことが重要だとお考えですか。(はいいくつでも)

【図 4-8 まちづくりのために重要な取り組み体制】



今後のより良いまちづくりのために重要と考える市民と行政の取り組み体制についてたずねたところ、「地域住民やNPOなどと行政が役割分担しまちづくりを進めていく」が48.8%と最も多く、次いで「市民の意見をよく聞いて、行政が主導で進めていく」39.5%、「地域組織やNPOなどの協力を得て、行政が主導で進めていく」27.7%などとなっている。(図 4-8)

【図 4-8-1 「協働」についての学習状況 まちづくりのために重要な取り組み体制】



“協働”についての学習状況別に今後のより良いまちづくりのために重要と考える市民と行政の取り組み体制についてみたところ、協働について学習したことがあるという人で「地域住民やNPOなどと行政が役割分担しまちづくりを進めていく」が63.6%と最も高くなっている。(図 4-8-1)

5 . 自由意見

問 15 亀岡市における市民と行政の協働によるまちづくりのあり方について、意見・提言がありましたら、ご記入ください。

【主な意見】情報提供・広報活動の充実について

	「協働」をアンケートで初めて知った。もっと、市民へのアピールが必要と思った。
	協働のまちづくりが市民にまだ浸透していないのではないかと思います。広報を使ってPRし、街全体が盛り上がることを望みます。
	NPO活動の情報公開。実際、ボランティア活動はどんな活動が知りたい。
	市民に分かりやすい内容で、読みやすいように市の広報などで啓発してもらえるといいと思います。
	亀岡市内におけるNPO団体の活動内容が知られていないと思う。団体名・活動内容が分かれば協力・活動が多くの人からより多く得られるのではないかと。
	亀岡市では、まだまだ行政が引っ張っていく必要があると思う。市の中心では参加意識があるが、郊外に行くほど意識が薄くなるように思う。市民参加の意識を高めるため、情報の開示のあり方を工夫すべきと思う。
	協働のまちづくりについてパンフレットや広報紙等で市民に告知されていますが、実際には市民はどこまで「協働」について知っているのかと思います。行政が自治会や区単位で働きかけて市民に理解や協力を求める場をつくって行けばよいと思います。
	ボランティアの具体的な内容を書いたパンフレットを作成したらどうか。「この分野なら自分にもできる」と思って、参加する人もいると思う。また、老人会、自治会、子ども会等にも情報を発信する。

【主な意見】行政側の取り組みについて

	ある程度軌道に乗るまでは行政主体で行かないと進まないし、住民（協働に興味のない人）の意識も変えられない。
	地域の個性や特徴を活かした協働の取り組みを積極的に展開できる土台、ベース作りを行政主導でサポート願いたい。
	今後協働を進める上で基本的なこととして、行政も市民も同じ次元で考え、苦労していきたいと思います。
	市民の意見が取り入れられるよう、色々な意見を聞くボックスなどが駅やスーパーなどにあれば入りやすいと思う。
	市職員が地域の中で率先すべきである。

【主な意見】市民側の意識について

新住民の中には、都会的なセンスで住民意識を持っていない人もいます。彼らの意識を変えるには自治会等はかなり有効であり、勧誘等手間はかかるが粘り強くやっていくしかないと思う。
行政に対するニーズは無限にあるのだから、それらを全て聞いていたら、行政は成り立たない。市民も何でも行政に依頼するのではなく、出来る限り自立する心構えが求められる。
市民も一人ひとりもっと亀岡市について真剣に考えることが必要です。

【主な意見】地域活動に参加するための条件について

人間は自由と人権の尊重が基本で、住民活動や協働はそれをサポートするためのものなので、不本意でも参加せざるを得ないような習慣にしてはいけません。
協働の必要性は十分感じていますが、高齢の為、気はあっても身体がついてこないのが実状です。自分に出来る何かがあれば時間を見つけて一つでも実行しようと思っています。
市民の中には、時間的・体力的、また経済的負担等の理由により、協働によるまちづくりについて協力できない人もいることを考えて進められるべきで、必ずしも強制的なものにならないように望みます。
生活にゆとりがないので、正直、仕事だけで精一杯ですが、未来の子どものために何とかしなければならぬとは思っています。ボランティア精神はちゃんとあります。

【主な意見】生活環境の整備・管理について

バスの本数が少ない。外出の際不便である。
亀岡駅周辺の開発、整備が進められることは良いことだと思いますが、私は生活に直結する保健・医療・教育・防災防犯等が充実している事が大事であると思います。
他市町と比べると、大きな市民公園や植物園・動物園等といった場所がない。市外から亀岡に行こうという美しい場所を作ることにより市民の協力及びマナーまでもよくなると思います。平和台公園を美しい公園に。市民と行政で作らしましょう。

【主な意見】地域の防犯・治安等について

未来の子ども達のためにも防犯・防災・福祉・子育て支援に力を入れてほしい。子どもが安全に学校に通えるように地域全体で見守ってほしいと思う。
ふれあいネットワーク制度について、導入にあたってサポートされる側にだけ情報を早くから行き渡らせ、サポートしてくれる人で探しておけと要求し、サポートする側には広報がなされていなかった。突然に近所の人から要求され、非常に困惑した。